

高尾山古墳の基礎知識

【これまでの経過】

昭和 53 年	小野真一が、高尾山穂見神社の小高い丘を「高尾山古墳」と命名。
平成 17・19 年度	試掘調査が実施され、前方後方墳の可能性が高まる。
平成 20・21 年度	本発掘調査が実施され、東日本最古級の古墳と判明。
平成 23 年度	発掘調査報告書刊行。
平成 24 年度	調査成果を公表するシンポジウム開催。
平成 27 年度	古墳の解体方針は白紙撤回。 第 1 回高尾山古墳保存と都市計画道路（沼津南一色線）整備の両立に関する協議会の開催。
平成 29 年度	都市計画道路沼津南一色線の整備方針公表。
令和元年度	都市計画道路沼津南一色線設計競技（コンペ）実施。
令和 4 年度	国史跡指定に向けた意見具申書を提出。
令和 6 年度	国指定史跡にふさわしい遺跡として文化審議会が文部科学大臣へ答申を受ける。

【高尾山古墳の基礎データ】

古墳の形：前方後方墳

全 長：約 62.178m（前方部：30.768m、後方部：31.410m）

墳丘高：後方部 5m、前方部 1m？

周溝幅：8～9m（南端は 2m 前後）

埋葬施設：長軸 3.408m × 短軸 1.237m の長楕円形

年 代：3 世紀中ごろ

【副葬品】

- ・鏡：中国で作られた青銅鏡で 1 面出土。副葬に際して意図的に割られた「破碎鏡」で、被葬者の頭付近に置かれていた。
- ・鉄槍：2 本出土。1 本はもともと剣であったものを作り替えたもの。
- ・鉄鏃：矢の先端につく矢じり。大きく 3 種類の形があり、計 32 本出土。
- ・やりがんな：彫刻刀のような小形の刃物。全長 12 cm。1 本出土。
- ・勾玉：1.25 cm という非常に小さな石製勾玉で、棺のほぼ中央から 1 点出土。

【出土土器】

- ・古墳時代前期に造られた古墳としては、土器の出土量が極めて多い。
- ・地元の土器以外に東海西部・近江・北陸・関東などに由来をもつ土器が多数出土。

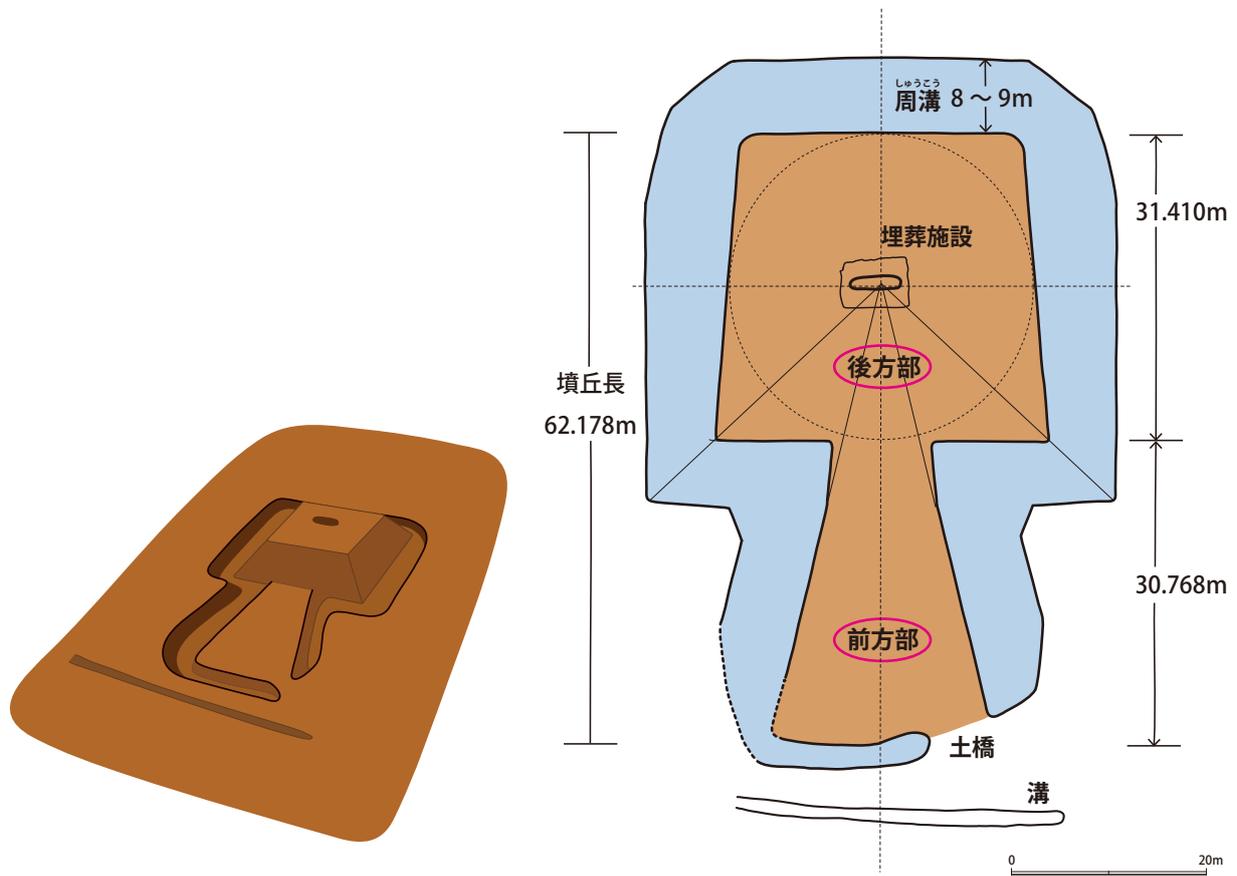
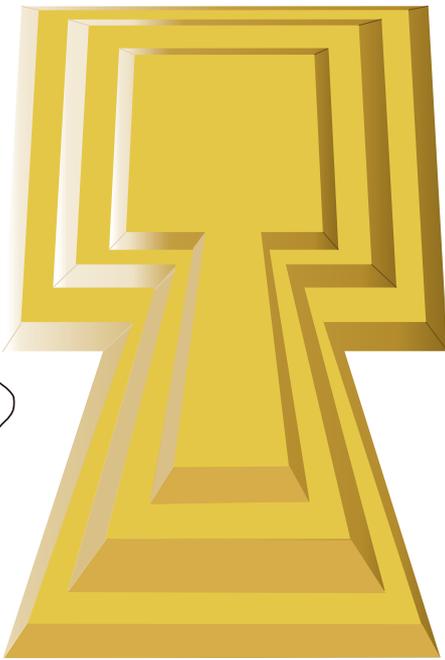


図1 高尾山古墳の俯瞰イメージと平面形復元図

前方後方墳



方形と方形(台形)をつなぎ合わせた形。愛知県より東に多く、また古墳時代の古い段階に限りて造られた。沼津では高尾山が唯一の例。

前方後円墳



方形と円形をつなぎ合わせた形。大規模なものが多く全国的に造られた。沼津には神明塚・長塚・子ノ神と3つの前方後円墳がある。

上円下方墳



方形の上に円形を乗せた形。古墳時代の終わり頃に登場し、全国的に数が少ないが、沼津には清水柳北1号墳がある。

円墳



円形をした古墳。小形のものが多く、古墳時代後半を中心に多くの円墳が造られた。沼津では愛鷹山を中心に分布する。

方墳



方形をした古墳。円墳より数は少ないがほぼ古墳時代を通じて造られた。

図2 様々な古墳の形

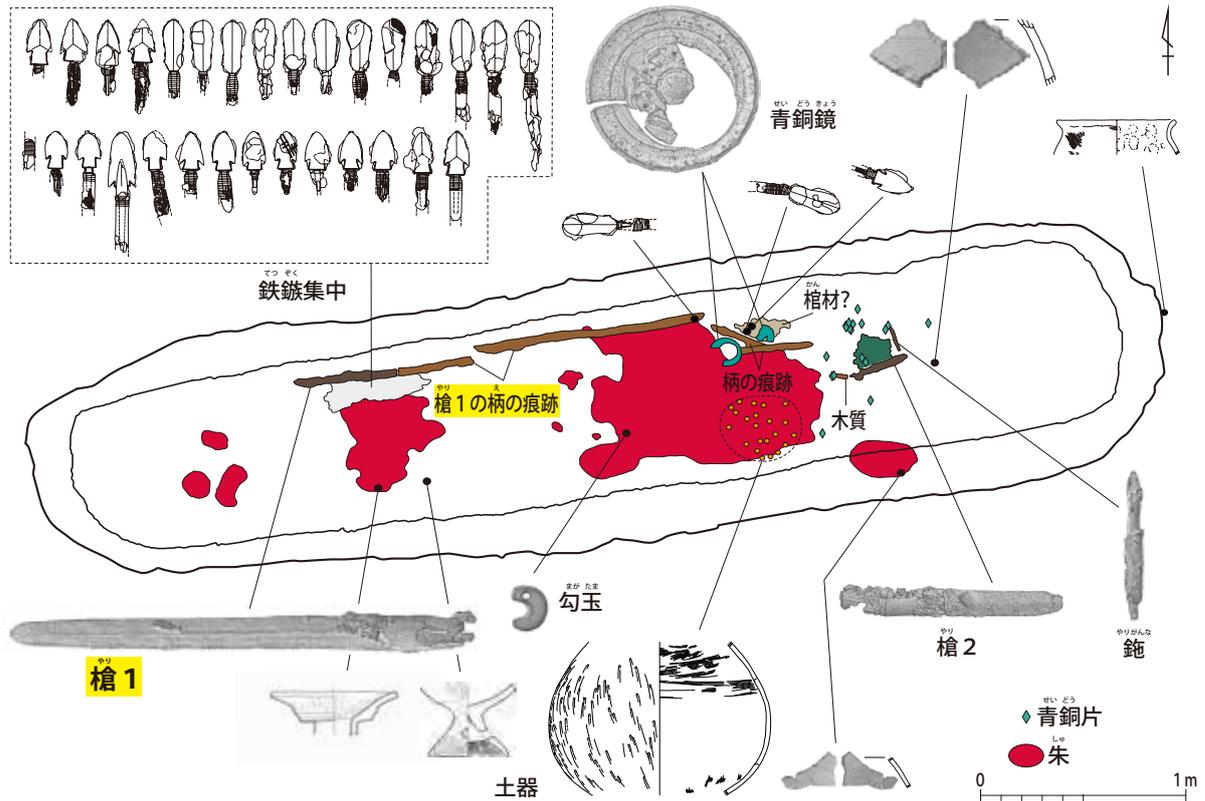


図3 埋葬施設遺物出土状況

時代	駿河中部	駿河東部	中部高地	相模
弥生末	弥生墳丘墓	丸ヶ谷戸 26m	古墳の登場	
250年		高尾山 62m	弘法山 63m	秋葉山4号 37m
古墳初期	神明山1号 73m	神明塚 54m		秋葉山3号 51m
300年		向山16号 70m		秋葉山2号 50m
古墳前期	午王堂山3号 78m		小平沢 40m	塚越 55m
400年	午王堂山1号 40m 袖木山神 110m	浅間 90m	森將軍塚 96m 大丸山 99m	長柄桜山1号 90m

図4 駿河・中部高地・相模地方における初期から前期古墳の年代

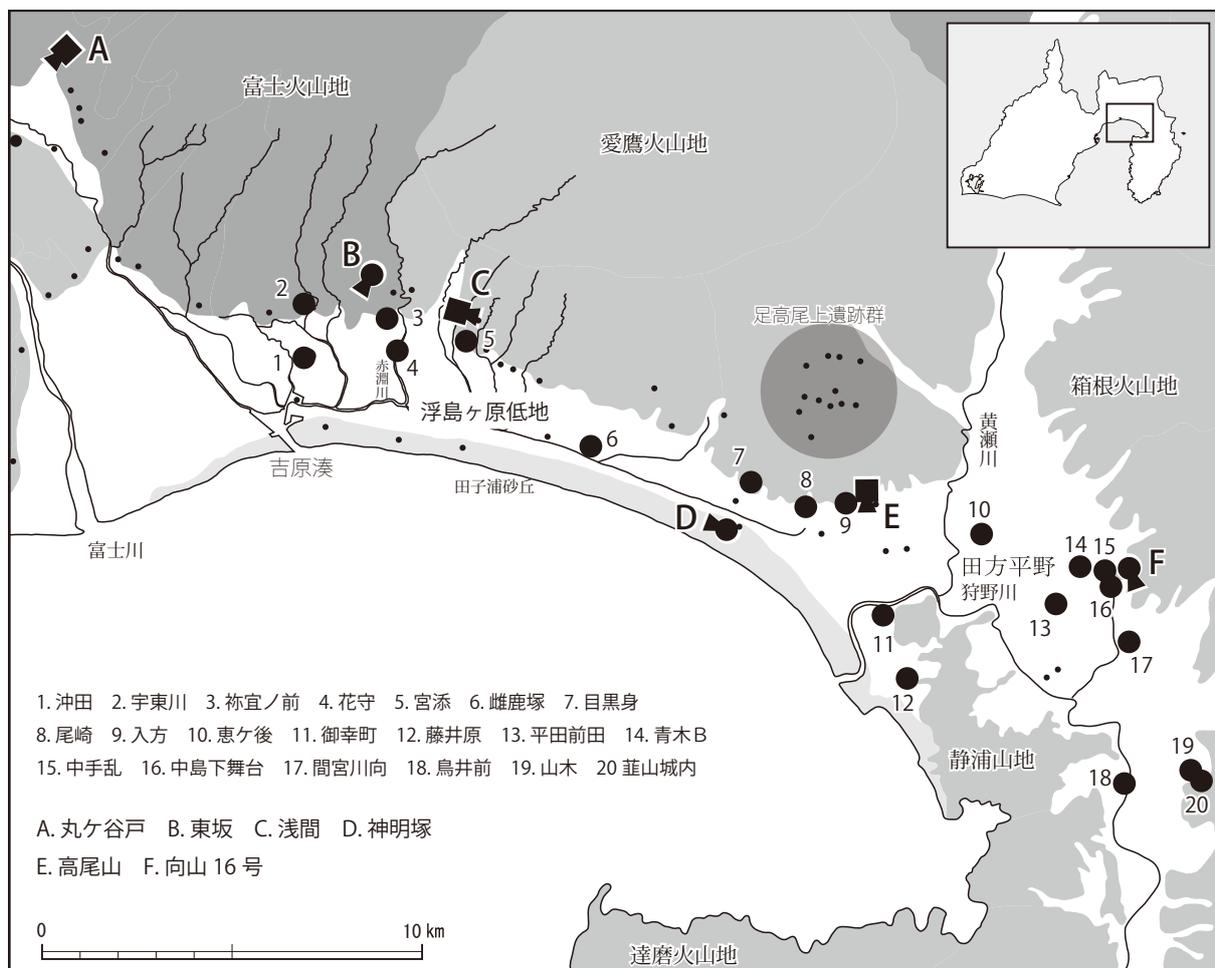


図5 高尾山古墳周辺における集落と古墳分布



埋葬施設及びその直上出土の遺物（青銅鏡・槍・鉄鏃・勾玉・ヤリガンナ・土器



古墳出土の外来系土器（北陸系・近江系・東海西部系・関東系）

高尾山古墳国史跡指定記念イベント高尾山古墳連続講座

第1回 高尾山古墳成立前夜の東駿河

2024.8.24(土)13:00～ 於 沼津市立図書館視聴覚ホール

銅鐸から「高尾山古墳」へー西の視点で考えるー

禰宜田佳男（大阪府立弥生文化博物館）

はじめに

「高尾山古墳」とのかかわり

1 弥生中期の近畿と東海（紀元前後）

- 南関東への水田稲作開始時期は遅かった…受容しなくても社会は機能した
- 兵庫県南東部から南関東への大航海
 - ・神奈川県中里遺跡 大規模な弥生集落の形成、二上山産サヌカイト製打製石器の移動
- 鳥形木製品…農耕に関わる祭祀（思想）も伝播…農耕社会の進展

2 弥生後期の近畿と東海（1・2世紀）

○銅鐸とは

- ・弥生時代中期前葉（紀元前4世紀頃）に出現
- ・近畿では「聞く銅鐸」から「見る銅鐸」へ（銅鐸の大型化）
農耕祭器から地域に成長してきた政治勢力のシンボルへと性格の変化（1世紀頃）

○近畿式銅鐸とは、三遠式銅鐸とは

- ・弥生後期の銅鐸
- ・近畿式銅鐸 鈕の頂部と左右に双頭渦文飾耳、緒左右に2個1対の重弧文飾耳3対
製作地 近江・北摂津説、大和説は劣勢
- ・三遠式銅鐸 鈕に双頭渦文飾耳なし、緒左右に飾耳3対
製作地 尾張説
- ・近畿式銅鐸（突線鈕3式）と三遠式銅鐸とが共伴する場所（1世紀）＝交通の要衝
丹後…日本海ルート確保のために配布…鉄器入手 二つの銅鐸分布圏社会は運命共同体
近江…三遠式銅鐸の勢力にとって南北ルート確保のために配布＝やはり目的は鉄器か
遠江…太平洋ルート確保のために配布
- ・三遠式銅鐸は1世紀後半で製作停止…近畿式銅鐸よりも早い
その後は近畿式銅鐸（突線鈕4・5式 2世紀）
完形銅鐸の出土地 丹後・播磨・阿波・安芸・紀伊・遠江
- ・伊豆半島周辺（銅鐸分布圏の外縁地域）にも近畿式銅鐸の「影」
沼津市藤井原遺跡・伊豆の国市田京段遺跡で近畿式銅鐸の飾耳出土
伝伊豆市堀切益山寺出土銅鐸…蓋然性不明で積極的に評価できない

○弥生後期の銅鐸分布圏と非銅鐸分布圏の対峙

- ・近畿と東海（銅鐸）と北部九州（銅矛）、吉備（特殊器台）、日本海側（四隅突出型墳丘墓）
- ・銅鐸分布圏に首長墓（墳丘墓）ナシ→銅鐸を奉じる地域は個人の突出を抑える社会
三遠式銅鐸生産終了後も東海では直ちに墳丘墓は築かれなかった（美濃は例外）

- ・沼津（「ぬまのつ」）は伊豆半島つけ根に所在
海路・陸路の結節点、近畿の弥生系文物の東限（到達点）
- *閑話休題 狗奴国東海説をめぐって
同じ銅鐸分布圏…近畿と東海の対立構造は考えられるのか？

3 「高尾山古墳」の成立（3世紀中ごろ）

○古墳時代の開始に二つの考え方

- ・定型化した前方後円墳（箸墓古墳）から、纏向型前方後円墳（ホケノ山古墳）から
- ・前方後円形の周溝墓（大和など）、前方後方形周溝墓（近江・尾張など）の出現
- ・墳丘墓と弥生墓（甕棺墓・方形周溝墓）には様々な違い

遺骸…弥生墓は死後ただちに埋葬可能、墳丘墓は死後一定期間経過後に埋葬
墳丘墓では遺骸腐朽が進行

被葬者の死から墳丘墓・古墳の完成までに様々な儀礼…納棺はいつ、墳丘上なのか

○「高尾山古墳」は古墳か？

- ・定型化した前方後円墳 銅鏡は完鏡を副葬、銅鏡や武器など棺外副葬顕著
縦穴式石槨の上面は石、粘土で密封
…遺骸を護るため、遺骸を封じ込めるため
- ・「高尾山古墳」 破碎鏡の副葬、棺上に破碎鏡の一部を配置した可能性
船形木棺 強く密封していない
…墳丘、副葬品、葬送儀礼などで定型化した前方後円墳と異なる

○「高尾山古墳」出現の意味

- ・首長墓（墳丘墓）の出現…個人を突出させる社会が成立
共同体重視では立ち行かなくなる状況…社会的要因・自然的要因（寒冷化）などが複合的に
- ・銅鐸分布圏（近畿式銅鐸・三遠式銅鐸）を構成していた政治勢力が大和政権の母体
近江系・東海系土器の出土…「高尾山古墳」は近江・東海の政治勢力との関係から成立

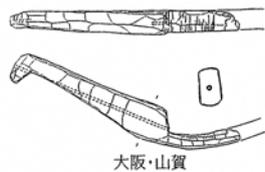
おわりに

○人口減少社会のなか古墳整備と道路整備の両立が実現した「高尾山古墳」

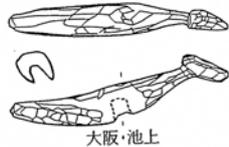
- ・古墳の活用に住民の皆さんの力は不可欠！…「わたしたちの高尾山古墳」それを次の世代に

【おもな参考文献】

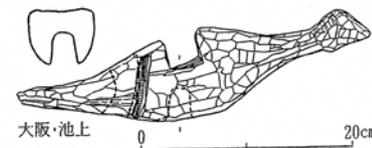
- 岩永省三 1997 『金属器登場』歴史発掘7 講談社
 佐原真 1996 『祭りのカネ銅鐸』歴史発掘8 講談社
 田中琢 1970 「まつり」から「まつりごと」へ 『古代の日本』5 近畿 角川書店
 都出比呂志編 1998 『古代国家はこうして生まれた』角川書店
 寺沢薫 2000 『王権誕生』講談社
 難波洋三 2011 「扁平鈕式以後の銅鐸」『大岩山銅鐸から見えてくるもの』滋賀県立安土城考古博物館
 福永伸哉 2002 『邪馬台国から大和政権へ』大阪大学出版会
 小林行雄 1967 『女王国の出現』文英堂



大阪・山賀

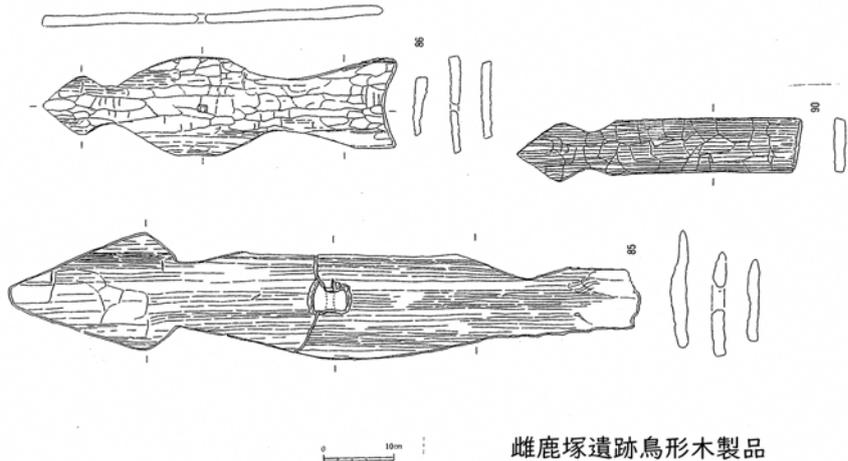


大阪・池上



大阪・池上

0 20cm



雌鹿塚遺跡鳥形木製品

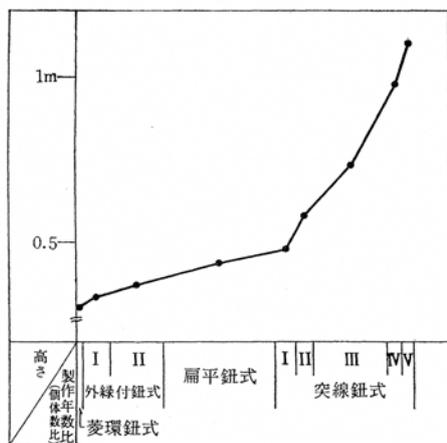


図1 銅鐸の大きさの変遷(田中1970)

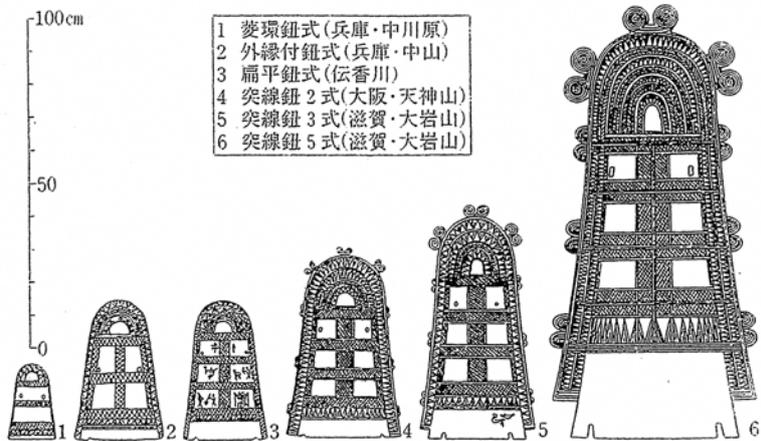
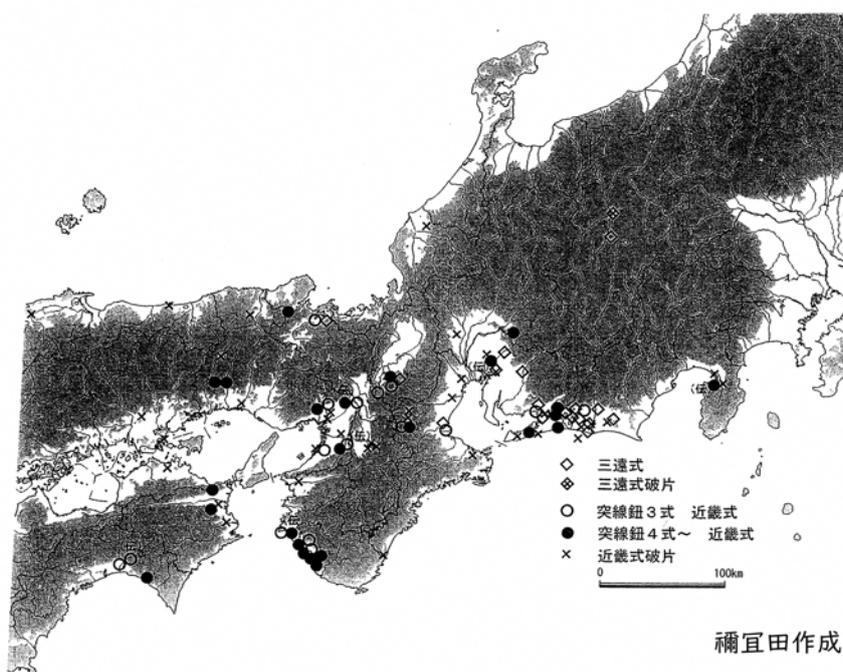
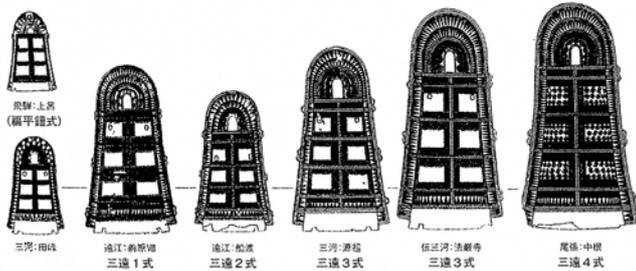


図2 銅鐸の型式変遷(春成1994より一部改変)

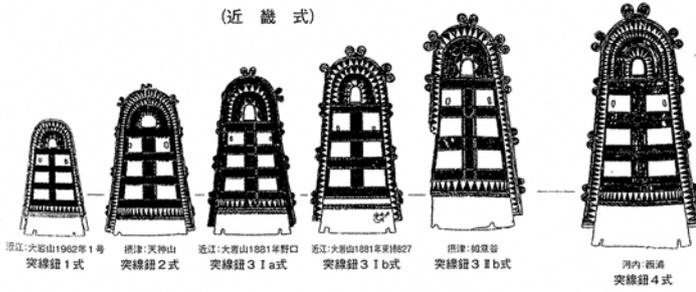
福永伸哉1998



禰宜田作成

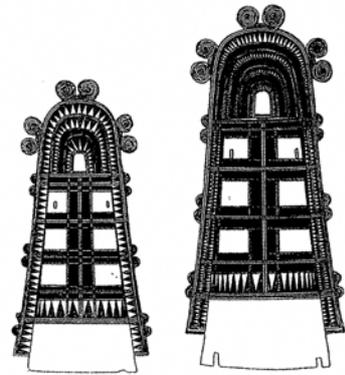


(三邊式)



(近畿式)

22 突線鈕式銅鐸の変遷

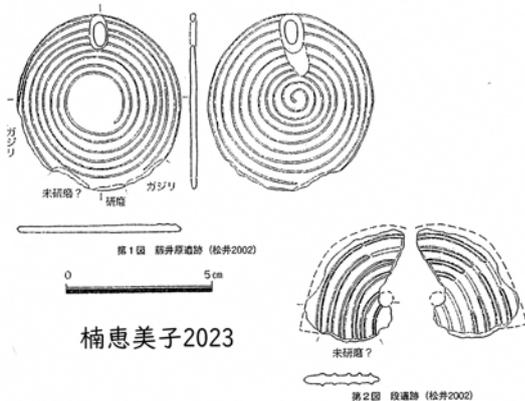


丹波・比良尾城 突線鈕5 I 式
近江・大宮山1881年実録26 突線鈕5 II 式



進藤 武「近畿式銅鐸と三邊式銅鐸」『古代文化』第47巻第10号
1995を一部改変

進藤武 2021



楠恵美子2023

第五九 東海道及び東山道の銅鐸



(據和田千吉氏)

(二上) 傳伊豆國益山寺銅鐸



(一) 傳伊豆國益山寺銅鐸

(據須藤非馬氏寫真)

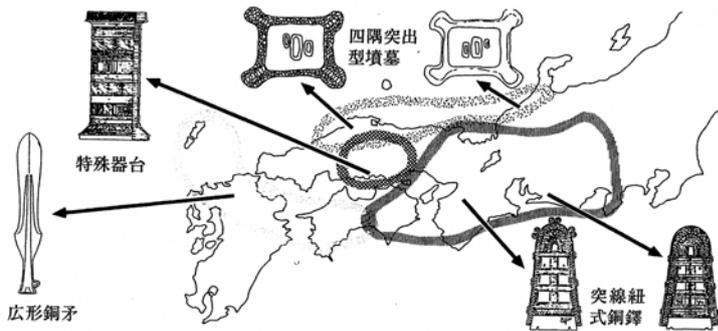
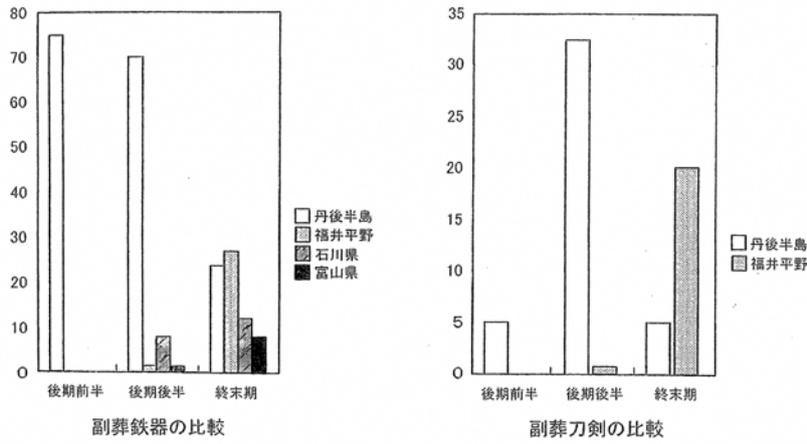


図23 地域首長連合のシンボル

福永伸哉2001

梅原末治1927



弥生博2005

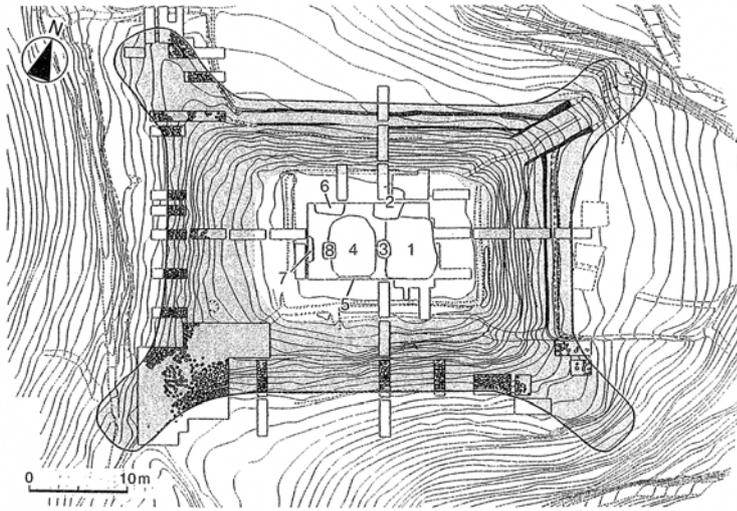


図22・西谷3号墓の全体概念図

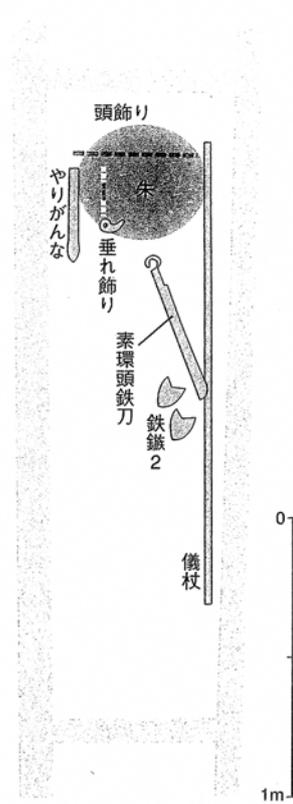


図49・棺内副葬品の配置

副葬品の配置から、腰に舶載の素環頭鉄刀を差し、ガラスの頭飾りをして黒漆塗りの儀仗をもって立つ王の姿がみえる。

肥後弘幸2016

渡辺貞幸2018

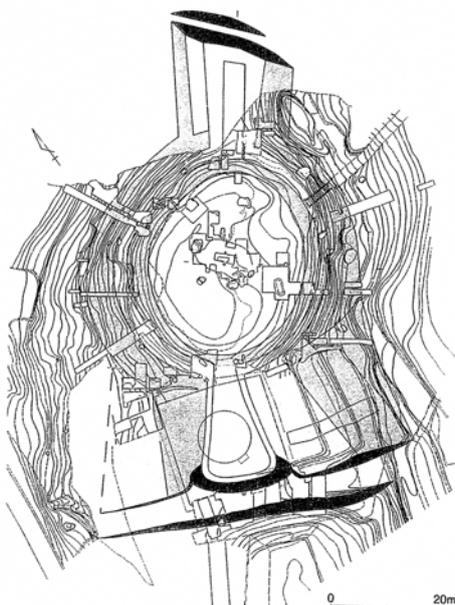


図5 墳丘復元図

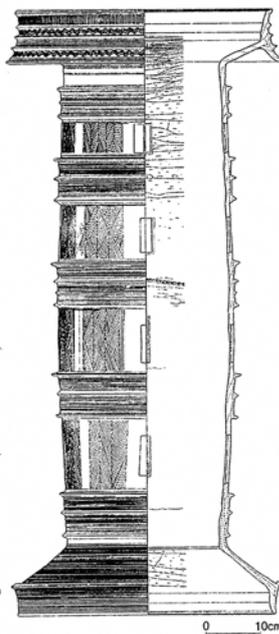


図28 特殊器台1

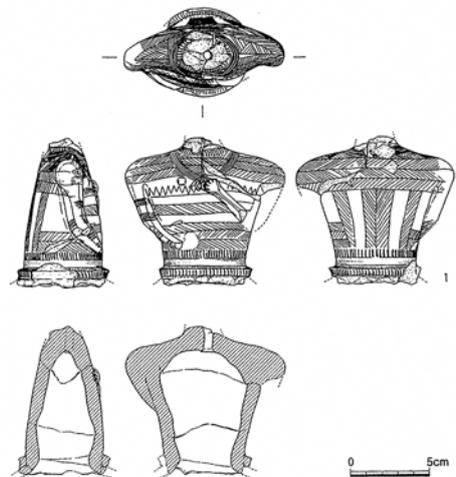
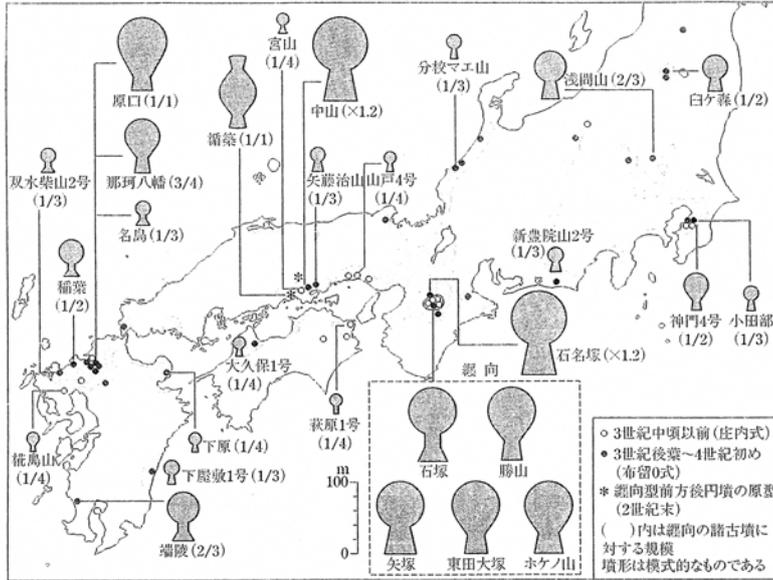


図35 人形土製品 (1)

宇垣匡雅2024



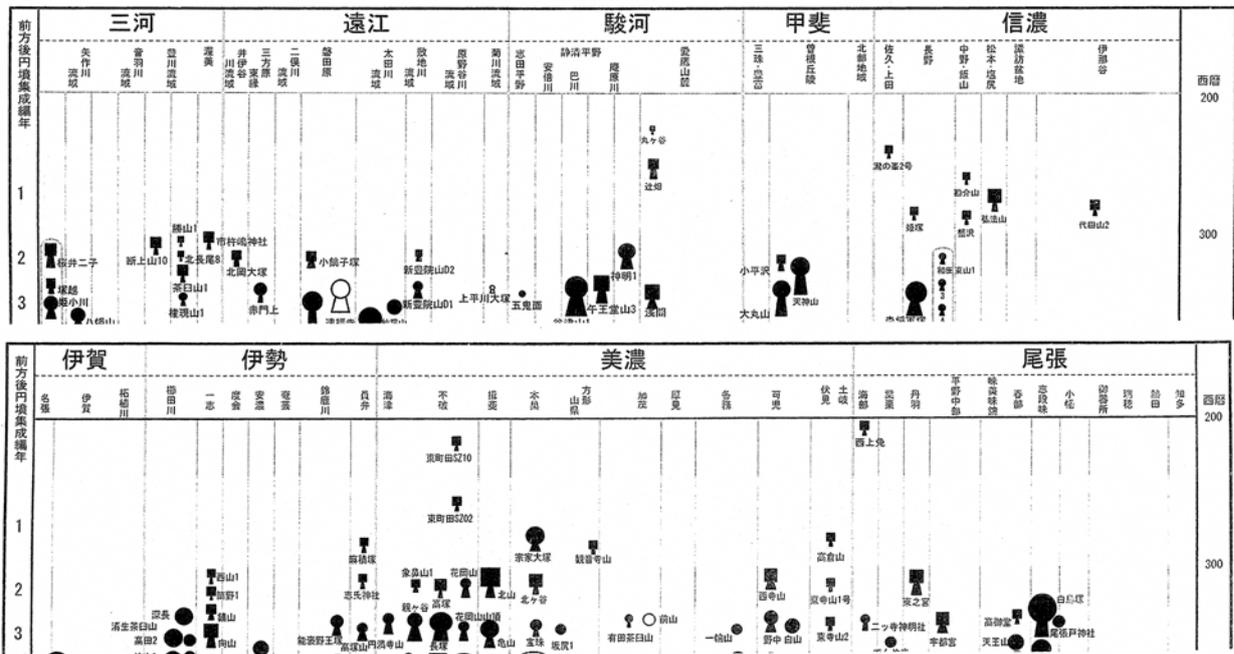
【畿内型前方後円墳】前方後円墳の起源である「畿内型」前方後円墳は二世紀末の播磨墳丘墓をもとに、三世紀前半のヤマト王権の王都畿内へ誕生した。その縮小規格のものが、王権に加わった各地のオウ(王)たちにもとり入れられた。庄内式のもの、中・東部瀬戸内や北部九州に集中し、畿内系土器がめだつて流入する地域(薄地のゾーン)も重なる点に注意

寺沢薫2000

	福岡	香川	島根	鳥取	岡山	奈良	大阪	京都	石川・富山	愛知	千葉
V期			友田								
V期	平原			阿弥大寺1	黒宮大塚(北丘) 伊与部山						
V期(新)	宮ノ前		西谷3, 西谷1, 西谷4, 来美, 仲仙寺10	西桂見1	立坂, 黒宮大塚(南丘), 鳥打, 楯築	黒石10	久宝寺南1				
A.D. 200	100m	鶴尾4	間内越1	一塚	女男岩, 鯉喰, 都月坂2					廻間1	神門5
VI期			大木権現山, 安養寺1, 宮山4	糸谷1	宮山	馬口山, 石塚		園部黒田	小菅波4, 杉谷4		神門4
VI期(新)											

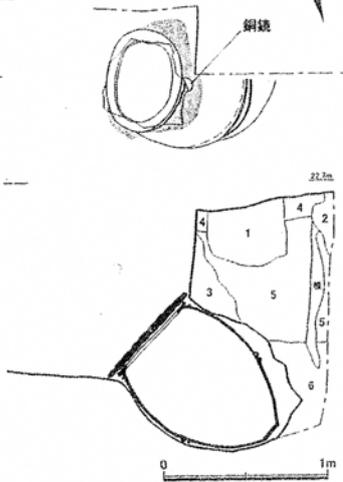
図 弥生墳丘墓の変遷 後期をV・VI期に分けてみると、墳丘墓はV期新段階に岡山、島根、鳥取で著しく巨大化し、突出部も発達する。VI期になると、奈良に前方後円墳の先駆となる超大型墳丘墓が出現する。北九州ではVI期は振わない。*印は吉備型特殊器台出土の墓。

春成秀爾1992



瀬川貴文2012

SJ2775



②

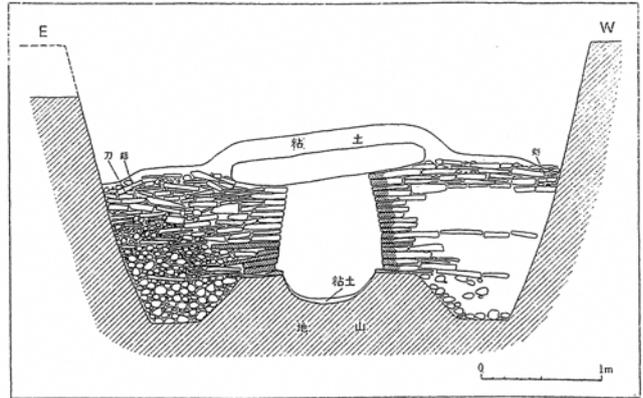
- 1 埋め戻しの真砂土
- 2 にぶい褐色 (7.5YR5/4) 砂質土 - 土坑 (粘性なし 縮まりあり)
- 3 暗赤褐色 (5YR3/3) 砂質土 - 埋土 (粘性あり 縮まりあり) まばらににぶい赤褐色 (5YR4/4) のブロック含む
- 4 明赤褐色 (5YR5/6) 砂質土 - 地山 (粘性なし 縮まり強い)
- 5 にぶい褐色 (7.5YR6/3) 砂質土 - 地山 (縮まり強く固い 2より少し明るい)
- 6 にぶい黄褐色 (10YR6/4) 砂質土 - 地山 (粘性なし 縮まり弱い 柔らかく細粒で緻密)

報告書より作成

SJ2775

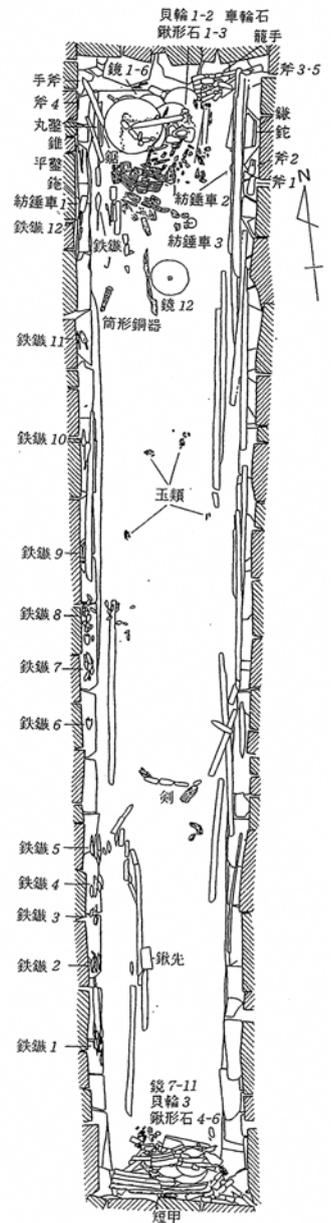


③



86 紫金山古墳の竪穴式石室の断面復原図

京都大学1993



	福岡佐賀	香川	島根鳥取	岡山	奈良	福井富山	岐阜愛知	千葉
100年			友田					
V期前中頃			阿弥大寺1	伊与部山			瑞龍寺山	
V期後半	平原		西柱見1	桶築	黒石10	小羽山30	加佐美山	
200年	宮ノ前	鶴尾4	間内越1	鯉喰		一塚	瀬間1	神門5
VI期前半					石塚			
VI期後半	吉野ヶ里		大木権現山	宮山		杉谷4	西上免1	神門4
古墳I期	石塚山	爺ヶ松	松本3			谷内16	象鼻山	高部30 200m
300年				浦間茶臼山	菅墓			

青銅祭器
 墳丘墓
 古墳

国立歴史民俗博物館1996

紫金山古墳の副葬品出土状況

講座2

「高尾山古墳成立前夜の列島東部の集落の動態とネットワーク」

西川 修一

(西相模考古学研究会)

はじめに 本講座の目的と概要

- ・ 弥生後期の社会は驚きに満ちている
- ・ 「脱東征史観のススメ」 発掘調査の成果に基づく「日本史像」の再構築をめざそう
- ・ 「周縁」からの視点を 私たちは歴史を「誰の視点」で見ているか？

② 愛鷹山麓の弥生時代後期に進行していたコトとは？

- ・ 弥生社会は「右肩上がり」に発展したのか？
→ ナゾの大溝の機能は何か？「溝の多義性」を考える
→ 愛鷹山南麓に展開した集落群と高尾山古墳の関係性
- ・ 駿河湾岸の東西で惹起していた諸現象 相模湾岸・東京湾岸・武蔵野台地東縁・それ以东…
→ 「相模湾インパクト」と「臼久保・山田橋段階」の飛躍性と古墳出現

③ 最新 モニュメント研究の新展開から考える

- ・ 世界史的な地平からみた巨大記念物の比較考古学
- ・ 『万物の黎明』(グレーバー&ウエングロウ) 『国家に抗する社会』(クラストル)
- ・ 「中心/周縁/亜周縁」 「ブアッフア」 「威信財交易」などの注目概念…

④ 『霧の子孫』が伝えたかったもの

- ・ 未来の社会に文化財を残す意義を一緒に考えましょう！
- ・ 文化財保護を通じて、私たちのなかにある『多様な日本史』に光を当てたい

メッセージ…文化財保護の味方は「わたしたち ひとり一人」です

～「声に出して」、ひとりでも多くの「仲間」を増やして欲しい

【参考文献】（五十音順） *列島東部の弥生・古墳時代を学ぶための入門書を中心にリストアップしました*

- 石野博信他 2015『邪馬台国時代の関東』青垣出版
- 岩永省三編 2023『古墳時代の親族と地域社会』市民の考古学 18 同成社
- 河野一隆 2024『王墓の謎』講談社現代新書 2745
- 佐原 真 1996『倭国乱る』朝日新聞社
- 白石太一郎 2004『考古学と古代史の間』ちくまプリマーブックス 154 筑摩書房
- 杉山和徳・西川修一編 2020『弥生時代の東西交流－広域的な連動性を考える－』六一書房
- 瀬川拓郎 2017『縄文の思想』講談社現代新書
- 関川尚功 2020『考古学から見た邪馬台国大和説 畿内ではありえぬ邪馬台国』梓書院
- 田中 琢 1991『倭人争乱』日本の歴史② 集英社
- 田中 裕 2023『古代国家形成期の社会と交通』同成社
- 都出比呂志 1989『古代史復原』5 古墳時代の王と民衆 講談社
- 都出比呂志 2011『古代国家はいつ成立したか』岩波新書
- 寺沢 薫 2000『王権誕生』日本の歴史 02 講談社
- 寺沢 薫 2011『王権と都市の形成史論』吉川弘文館
- 寺前直人 2017『文明に抗した弥生の人びと』歴史文化ライブラリー 449 吉川弘文館
- 西川修一編 2005『東日本における古墳の出現』六一書房
- 禰亘田佳男 2024「前方後円墳出現と畿内弥生社会」『日本考古学の論点』(上)雄山閣
- 広瀬和雄 2003『前方後円墳国家』角川選書
- 藤尾慎一郎・松木武彦編 2019『ここが変わる！日本の考古学 先史・古代史研究の最前線』吉川弘文館
- 藤沢 敦編 2015『倭国の成形と東北』東北の古代史 2 吉川弘文館
- 藤森栄一 1969『石器と土器の話』学生社
- 古屋紀之・西川修一編 2015『列島東部における弥生後期の変革』六一書房
- 北條芳隆・溝口孝司・村上恭通 2000『古墳時代像を見なおす』青木書店
- 北條芳隆・小茄子川歩編 2021『『社会進化の比較考古学』季刊考古学・別冊 35 雄山閣
- 松木武彦 2009『進化考古学の大冒険』新潮社選書
- 松木武彦 2015『美の考古学 古代人は何に魅せられてきたか』新潮社選書
- 松木武彦『古墳』角川文庫 24217
- 三好 玄編 2023『紀元一世紀の社会変革 弥生後期のはじまりをさぐる』大阪府立弥生文化博物館図録 76
- 中塚 武 2022『気候適応の日本史 人新世をのりこえる視点』歴史文化ライブラリー544 吉川弘文館
- 森 浩一 1986「潟と港を発掘する」『日本の古代』第3巻 中央公論社
- 吉村武彦・吉川真司・川尻秋生編 2019『前方後円墳－巨大古墳はなぜ造られたか』岩波書店
- D・グレーバー/D・ウェングロウ 2023『万物の黎明 類史を根本からくつがえす』光文社
- E・W・サイード 1986『オリエンタリズム』平凡社
- J・C・スコット 2019『反穀物人類史 国家誕生のディープヒストリー』みすず書房
- P・クラストル 1987『国家に抗する社会 政治人類学研究』叢書言語の政治 2 風の薔薇

53.6cm

大風呂南墳墓群(与謝野町)



長い関

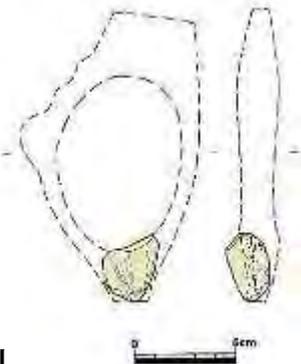
47.6cm



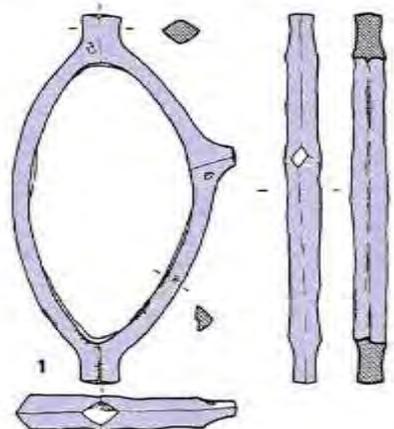
呑口式

刃関双孔

29.9cm

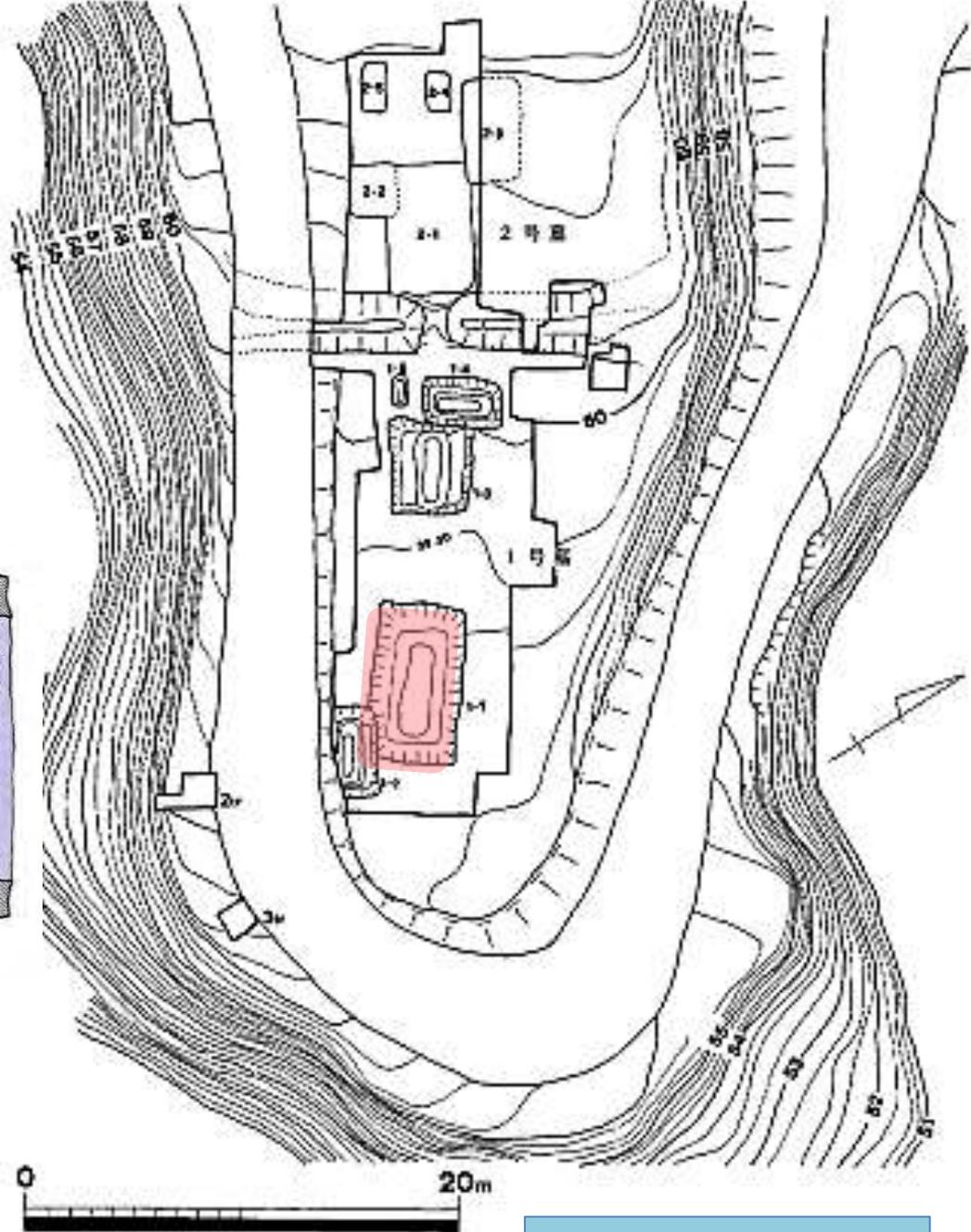


ゴホウラ腕輪



銅製腕輪

白数編2000



規模は小さい

膨大な文化財調査によって解明された**事実**

〔ほんの一部...〕

- a. **2c** (弥生後期後半) の極端な『**人口増**』と『**集住**』の事実
- b. 生活資材の**外部依存**と大量物資の**流入**→吹き溜まり？
- c. 西方の**外部世界**との**緊密**な関係と**地域色**の発色
- d. 定型化古墳は弥生墓(周溝墓)の発展系列にはない？
- e. 古墳とは『**見せる**』&『**見える**』存在で**ランドマーク的**...
- f. 前期古墳は**ネットワーク・交通**と深く関わる
- g. ヤマトは本当に『**強大**』？ =むしろ『**空白**』か？



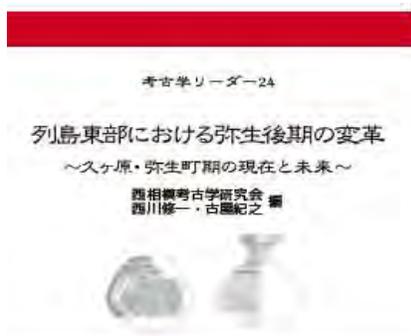
→ **3c** 中頃に突如巨大な前方後円墳の
築造が近畿地方で開始された？
地方もほぼ同時？...時期差は僅か？

『列島東部における弥生後期の変革』(2015年5月)

『弥生時代の東西交流 広域的な連動性を考える』(2020年5月)



古屋他編2015



立花編2013

① 列島東西の**編年網**の再検討

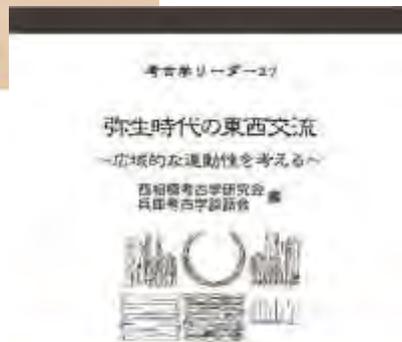
② 集落動静の鮮明化～極端な「**集住**」

③ 集団間の物流**ネットワーク**の実態

④ 古墳時代の**開始論**への新視点

⑤ 「光は西から」「西高東低」の克服へ

八一書房



杉山他編2020

八一書房



ジェームズ・C・スコット 2019年12月刊

『反穀物の人類史』

国家誕生のディープヒストリー 立木勝／訳 みすず書房

「7 野蛮人の黄金時代」の扉の小文

小農の歴史は町の間人間が書く
遊牧民の歴史は定住民が書く
狩猟採集民の歴史は農民が書く
国家をもたない人びとの歴史は宮廷書記官
が書く
資料室での分類はどれも「野蛮人の歴史」
になる。

J. スコット2019 『反穀物の人類史』 (p. 199)



アメリカ／政治学者・人類学者（エール大学教授）
1936年12月02日生 『ゾミア 脱国家の世界史』（2013）

脱「東征史観」のススメ

『日本書紀』卷第七 景行紀 30年

天皇持斧鉞、以授日本武尊曰「朕聞、其東夷也、識性**暴強**、**凌犯**爲宗、村之**無長**、邑之勿首、各貪封塚、並相**盜略**。亦山有**邪神**、郊有**姦鬼**、遮衢塞徑、多令**苦人**。其東夷之中、蝦夷是尤**強焉**、男女交居、父子無別、冬則**宿穴**、夏則**住櫟**、**衣毛飲血**、昆弟**相疑**、登山如**飛禽**、行草如**走獸**。承恩則忘、見怨必報、是以、箭藏頭髻、刀佩衣中。或聚黨類、而犯邊塚、**或伺農桑**、以略人民。擊則隱草、追則入山、故往古以來、未染王化。

御諸山(三輪山)

『日本書紀』景行紀 51年

所獻神宮蝦夷等、晝夜**喧譁**、出入**無禮**。時倭姬命曰「是蝦夷等、不可近於神宮。」則進上於朝庭、仍令安置御諸山傍。未經幾時、**悉伐神山樹**、叫呼隣里而脅人民。天皇聞之、詔群卿曰「其置神山傍之蝦夷、是本有**獸心**、難住中國。故、隨其情願、令班邦畿之外。」是今播磨・讚岐・伊豫・安藝・阿波、凡五國**佐伯部**之祖也。

http://www.seisaku.bz/shoki_index.html



<https://www.munakata-archives.asia/frnSearchRuijiDetail.aspx?langid=&id=45>

『書紀』が口を極めて貶めるエミシの獣のような「人となり」

無文字社会→文字・法支配

階級のない社会→階級社会

旧石器
縄文

前10c

稲作・金属

弥生

倭国乱
威信財

3c

5c

前方後円墳

古墳

7c

国造制
氏姓制

租庸調
贄・労役

朝日新聞社1988



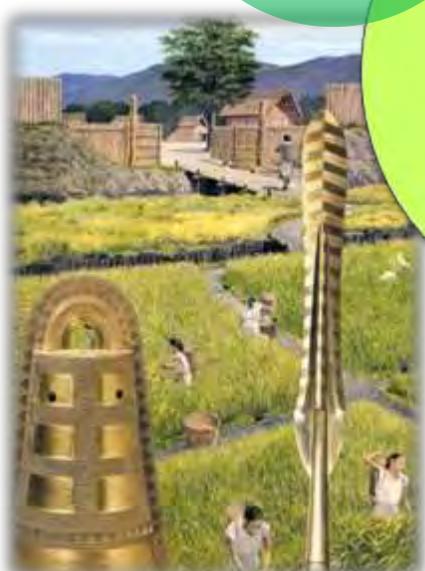
律令制

9c

中央集権
軍事組織

12c

王朝
国家



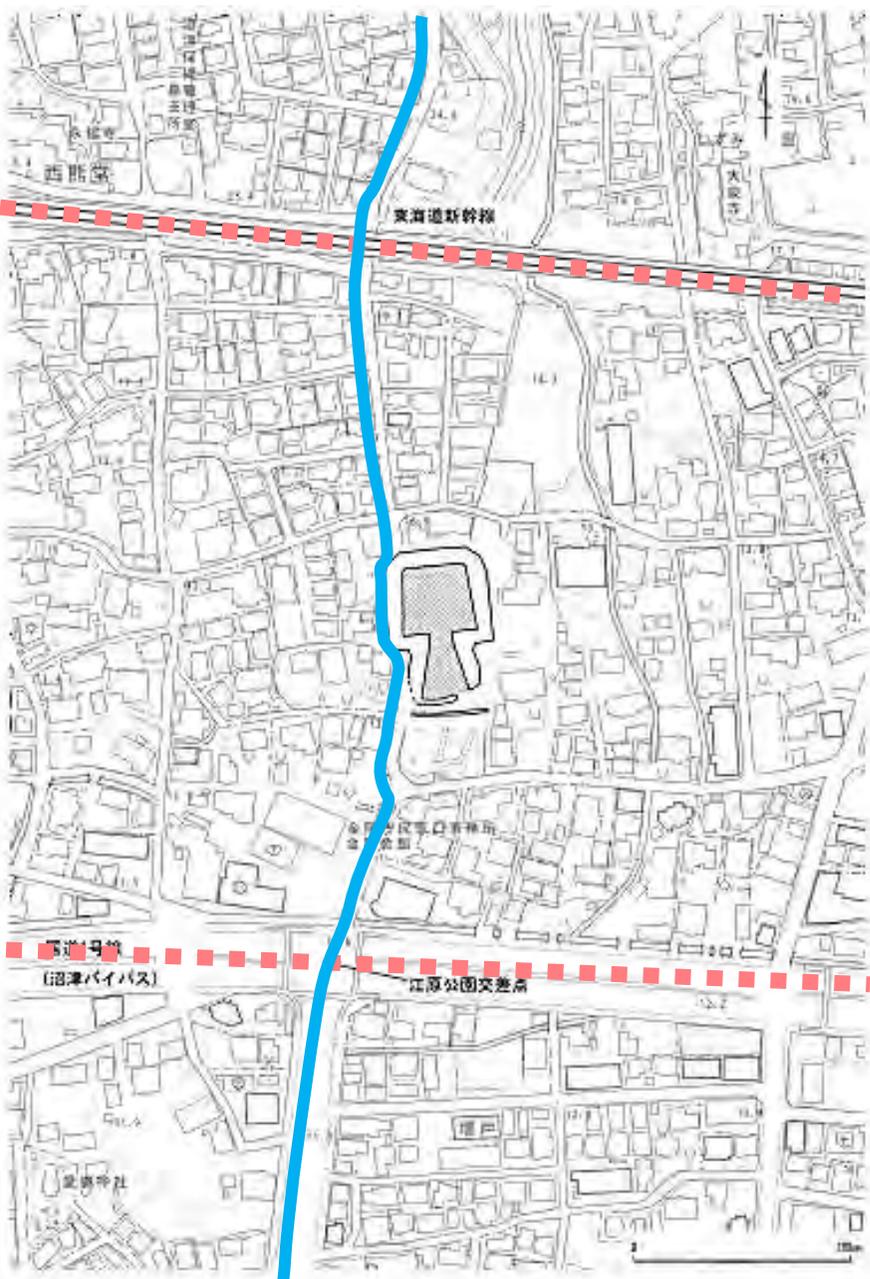
藤尾他2014

部族社会→首長制 →初期国家

采女・舍人
防人

「東夷」・国際化・外交…

高尾山古墳はどうしてここに？



本日の論点整理

- 脱「東征史観」のススメ
- 愛鷹山麓で何が進んでいたのか？
- 環境決定論か？
社会進化論か？
- 古墳出現のナゾ...に挑む
- 遺跡保護の「未来」を考えよう

沼津市域の集落遺跡の標高

※2024年4月現在

低地

176棟

標高は20mを基準

愛鷹山麓

988棟

その他

7棟

0 200 400 600 800 1000 1200



弥生時代後期になると
駿河湾を南に臨む愛鷹
山南麓に集落遺跡群が
展開【植出遺跡】

【データ提供 沼津市教委】



植出北 II

中見代 I

八兵衛洞

八兵衛屋敷 II

北神馬
土手

植出

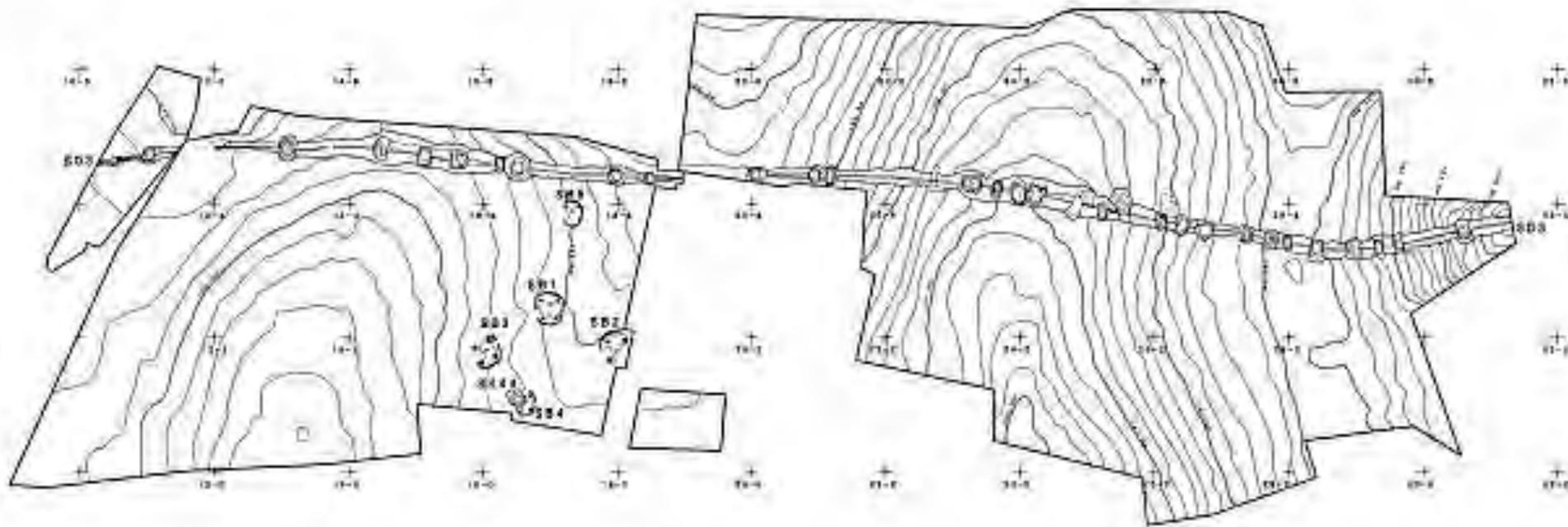
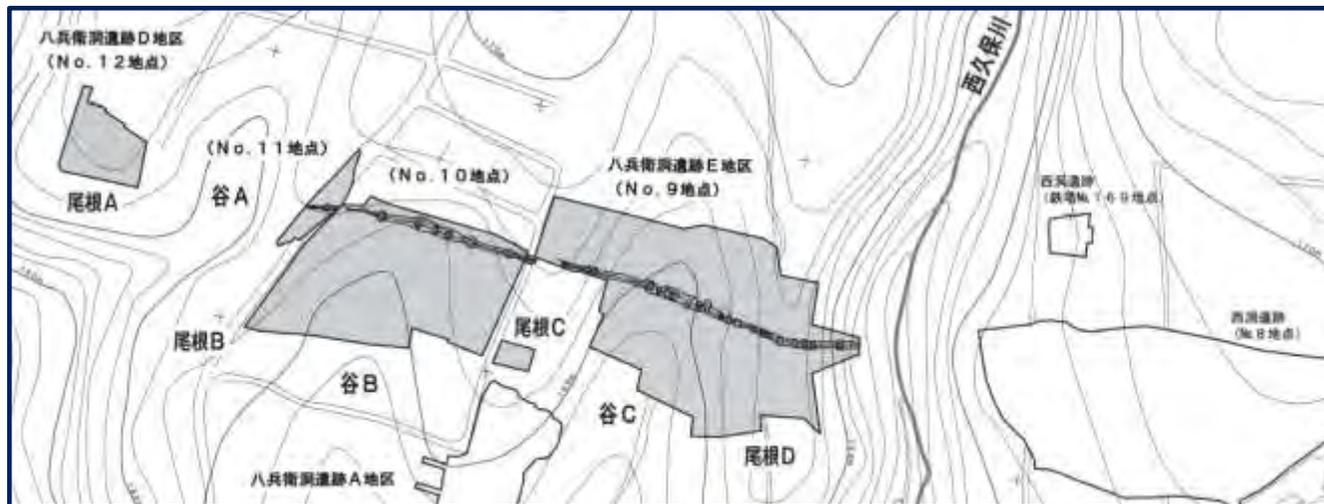
八兵衛屋敷 I

植出

八兵衛洞遺跡Ⅲ

第二東名No.9~12地点

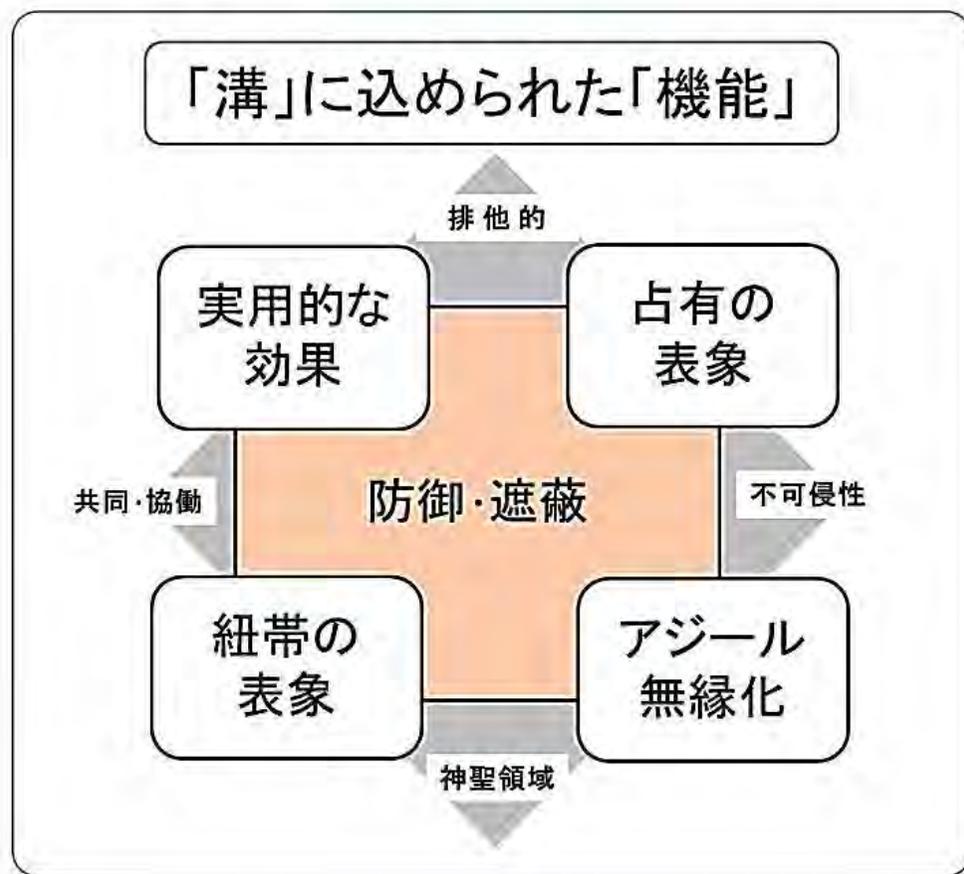
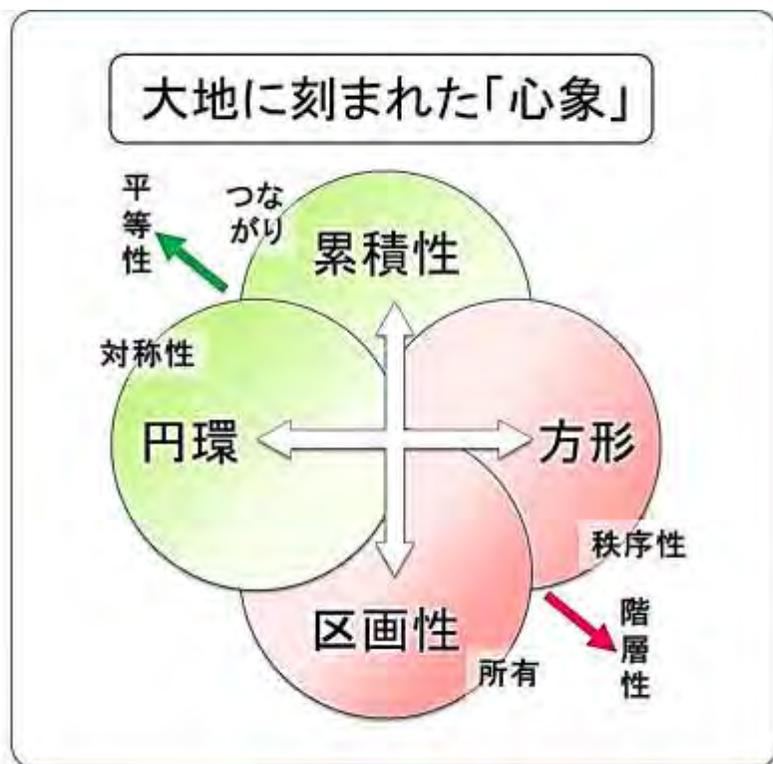
池谷他『沼津市文化財
調査報告書』第99集



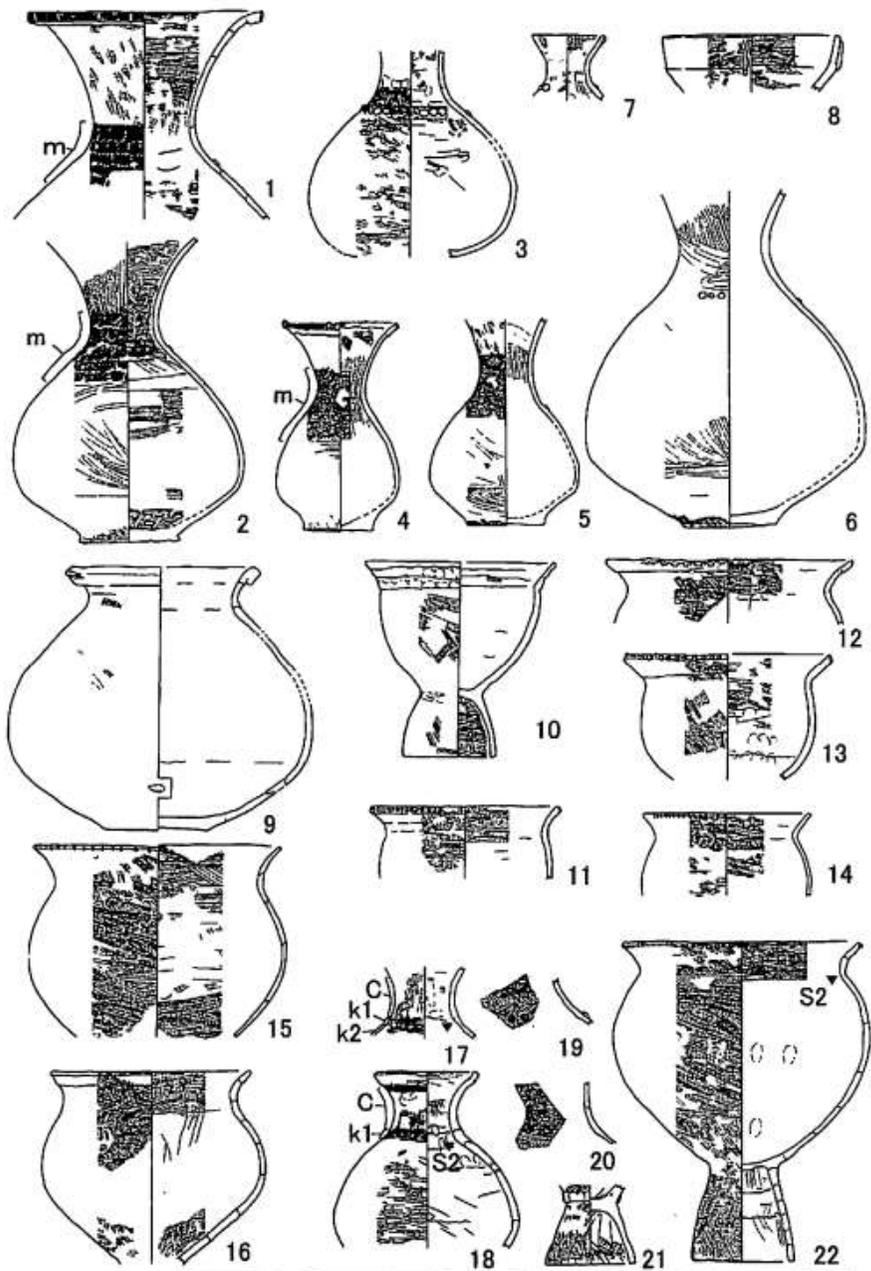
この「ナゾの溝」に画されたムラ...いったい何のため？

「ニッ洞南遺跡から八兵衛洞遺跡まで少なくとも1kmに渡って設置されており、その間で複数の尾根と谷を横断している。ニッ洞南遺跡と植出北Ⅱ遺跡が立地する尾根の東隣の尾根では、溝の所属時期である弥生時代後期～古墳時代初頭をおもな活動時期とする集落が希薄であり溝址も発見されていないことから、溝の東端は(略)ニッ洞南遺跡であると考えられる。(池谷氏の見解)

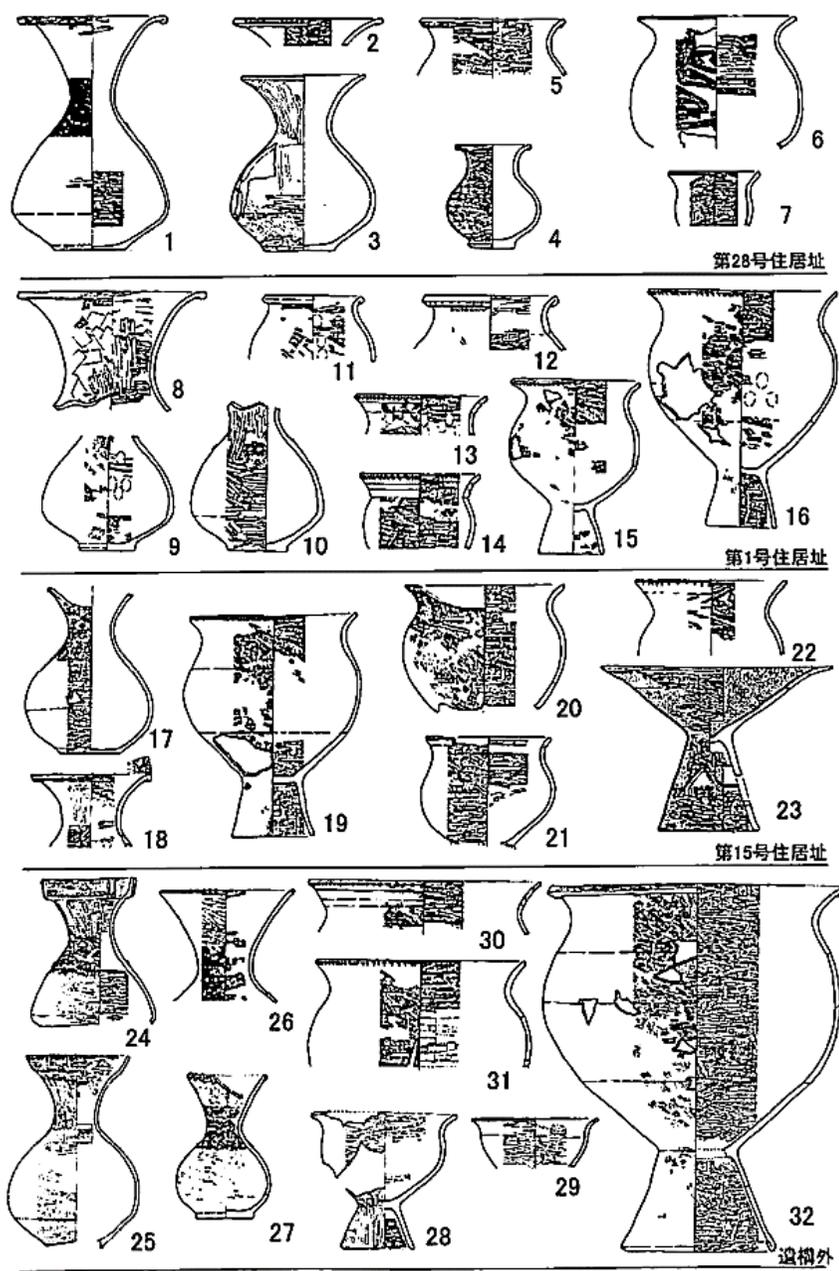
池谷・北2011『ニッ洞南遺跡・植出北Ⅱ遺跡 第二東名 No. 4・5 地点』沼津市文化財調査報告書 第102集



スルガの後期弥生土器 雌塚式土器



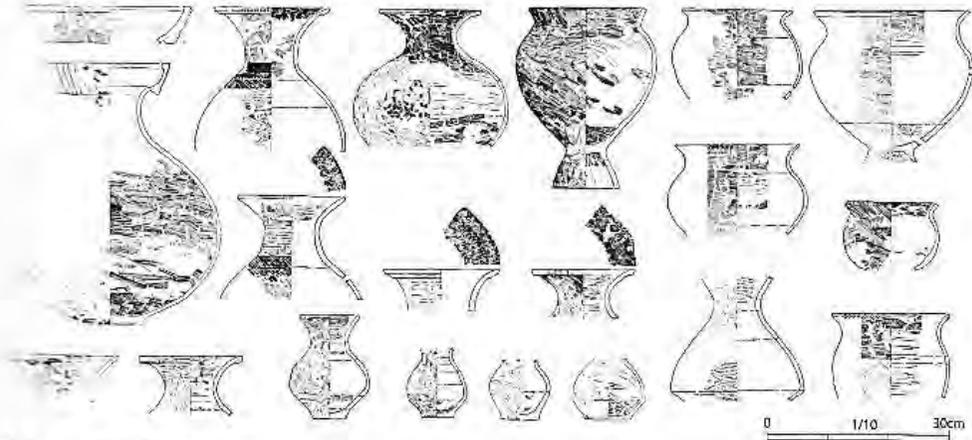
第8図 沼津市尾崎遺跡環濠状遺構出土土器 (S=1/6)



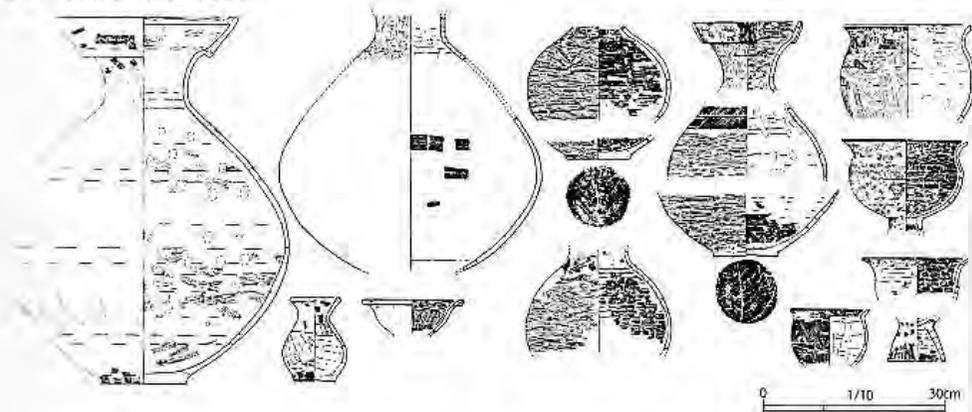
第9図 沼津市雌鹿塚遺跡出土土器 (S=1/8)

スルガの古墳出現期～古墳前期の土器 大廓式

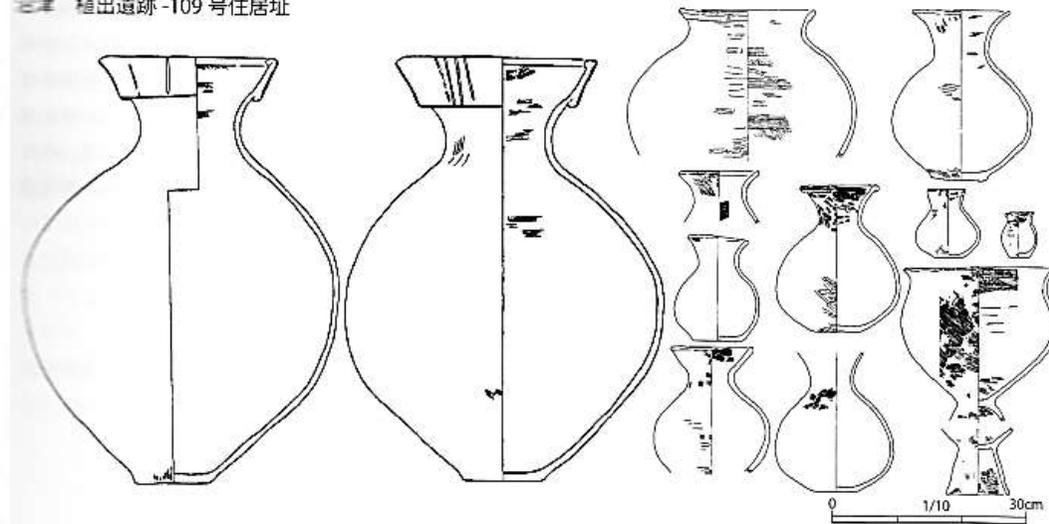
三津 八兵衛洞遺跡-2号方形周溝墓



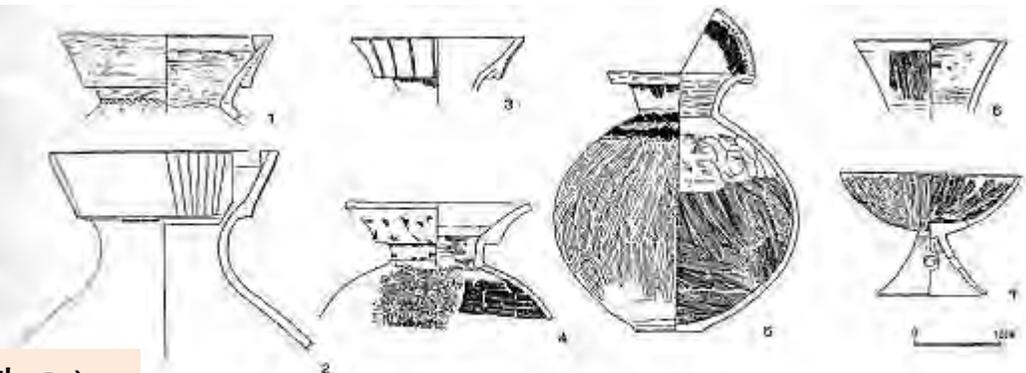
三津 北神馬土手遺跡-SB231



三津 樋出道跡-109号住居址



第1図 足高尾上遺跡群における基準資料実測図



第2図 大廓式土器の特有な器種一覧図

- 外来系の要素が極端に低い(交流の日活発性?)
～東海西部系・南関東系
- 隣接地(相模・甲斐・武蔵野)への影響力の強さ
～ただしば装飾壺は変様?
- 「大型の大廓壺」の拡散力は際立っている

渡井英誉2013「大廓式土器から見た古墳時代前期」『駿河における前期古墳の再検討』静岡県考古学会シンポ

大廓

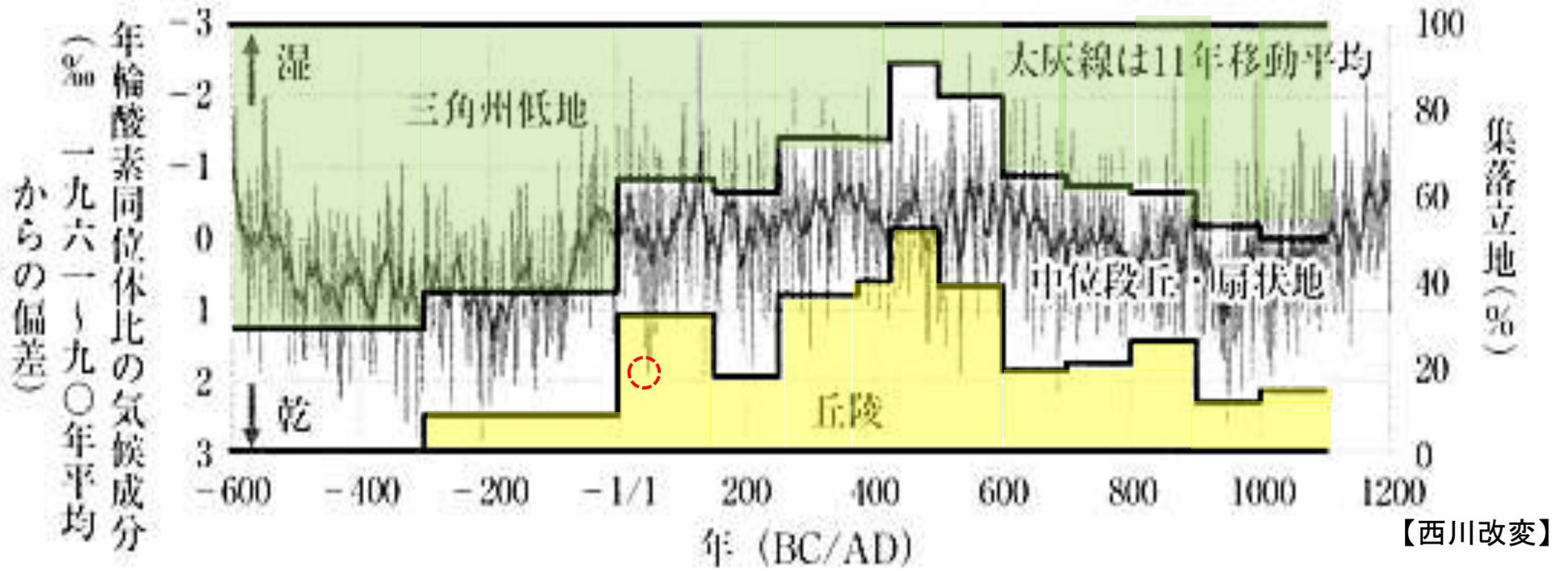
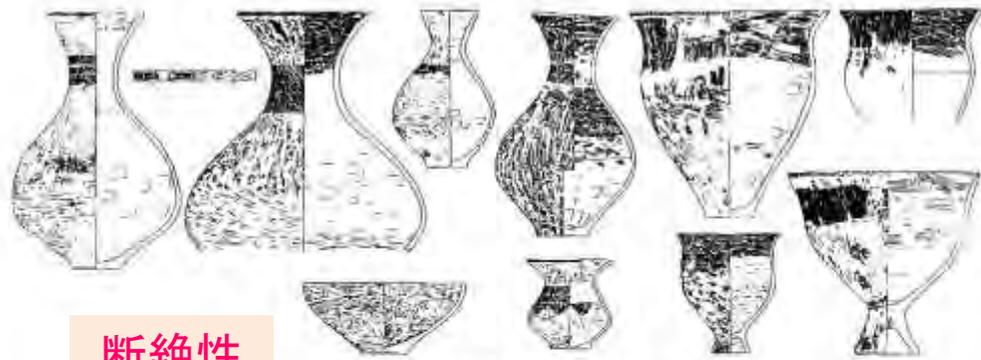


図15 中部日本における樹木年輪セルロースの酸素同位体比の気候成分(灰線)と淀川右岸における集落立地の変化(黒線の間)の区画(若林2020)

紀元前後の急激な寒冷化／湿潤な環境へと向かった大きな変化は近畿地方では集落の再編を誘発した可能性があり、集落の立地も低湿な沖積平野から、段丘や丘陵面にシフトした？...

中期/後期の断絶性とは？

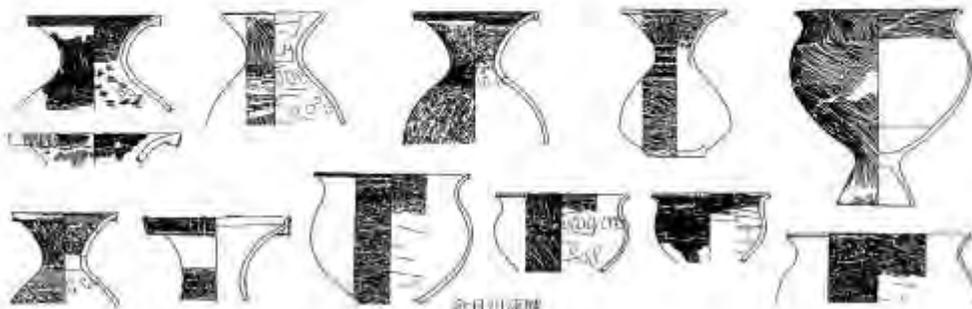


断絶性

弥生時代中期最新段階



相模川流域

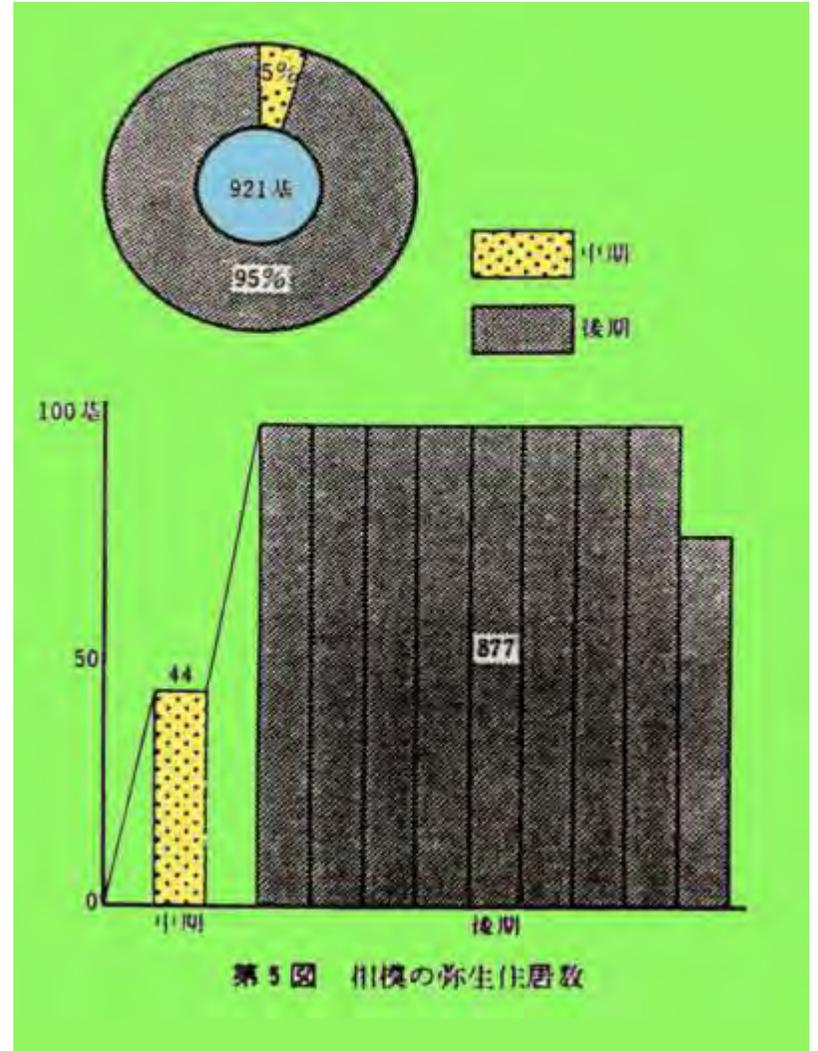


金目川流域

弥生時代後期前半

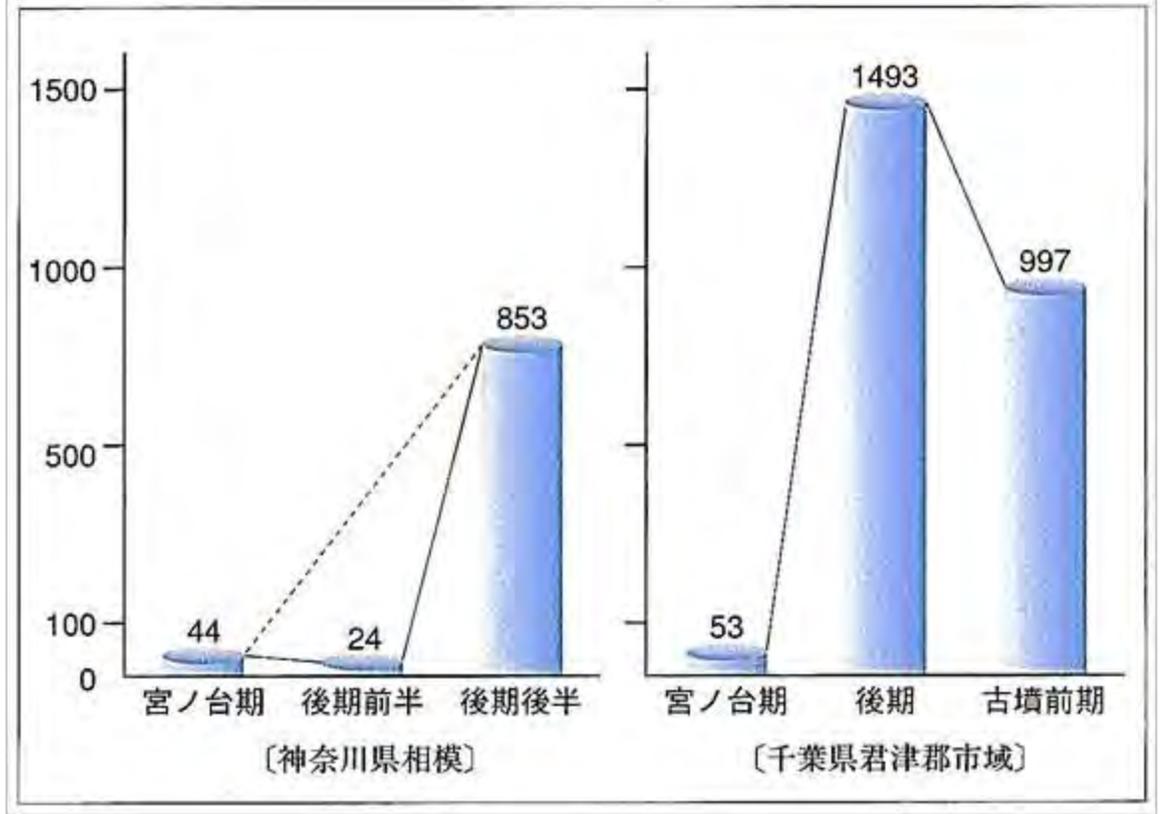
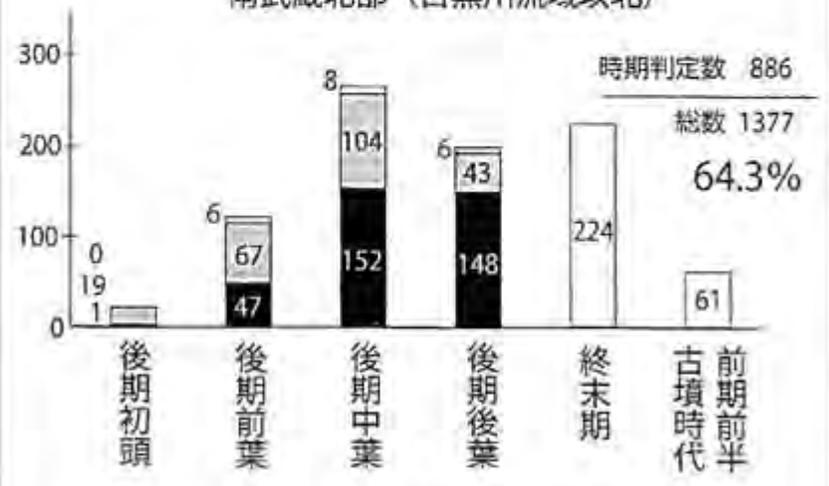
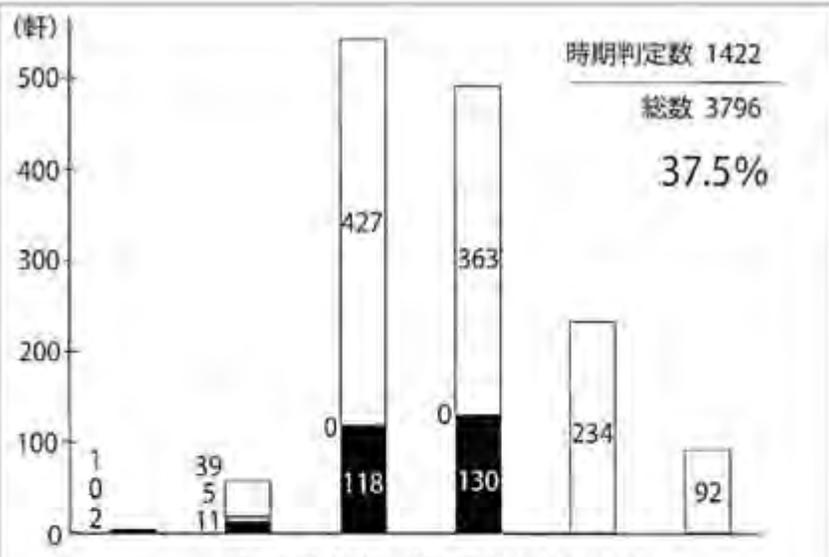
相模の上器様相 (1)

立花1997



第5図 相模の弥生住居数

西川1991

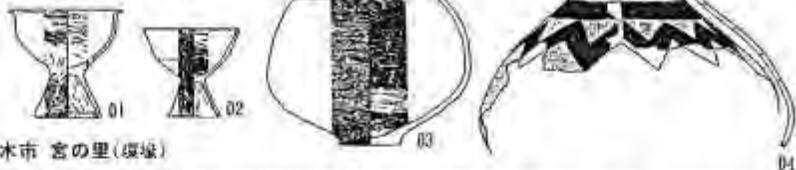


石川2008

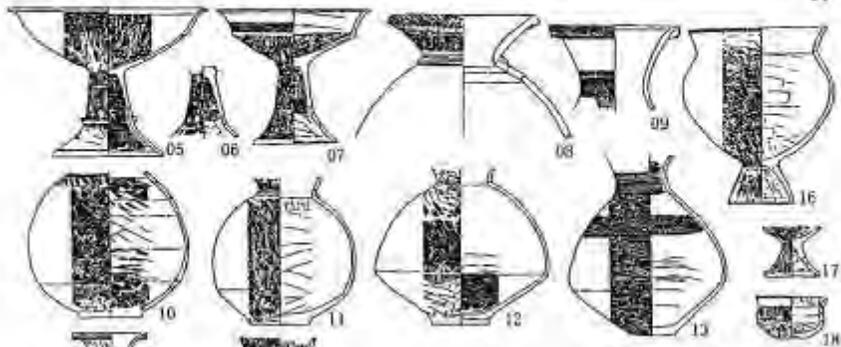
湾岸地域の急激な人口 →集住の結果と推定

それまでの拡散的な人口動態とうってかわって、沿岸部への極端な集住を強力に志向するようになる

伊勢原市 石田・細谷(環壕)



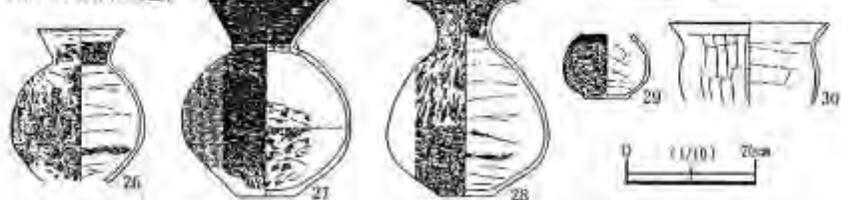
厚木市 宮の里(環壕)



寒川町 大蔵東原
(第6号方形周溝墓)



(第8号方形周溝墓)



第3図 相模川水系における西遠江系土器を伴う事例

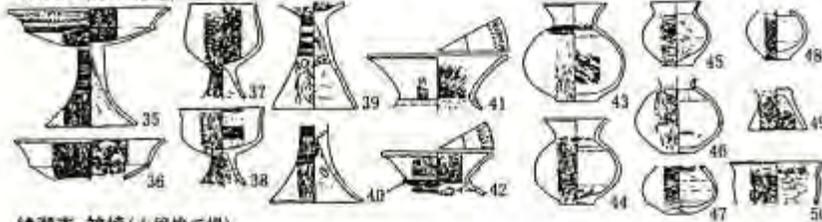
厚木市 御屋敷添3(環壕)



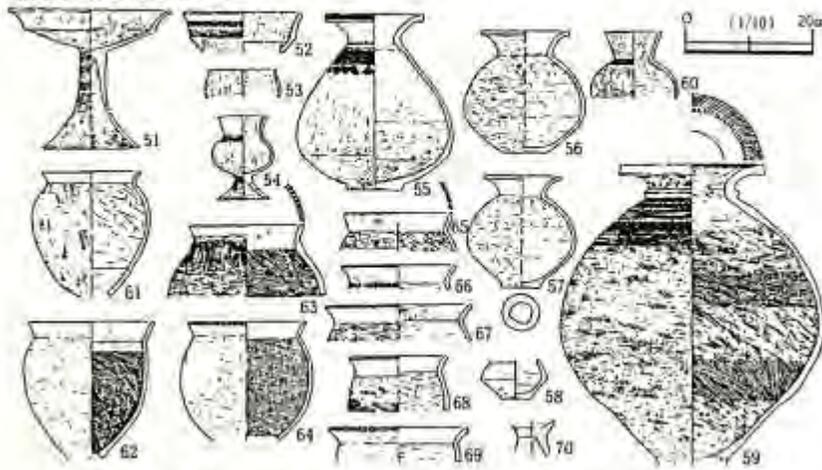
寒川町 大蔵東原(環壕)



寒川町 高田(環壕)



綾瀬市 神崎(土器捨て場)



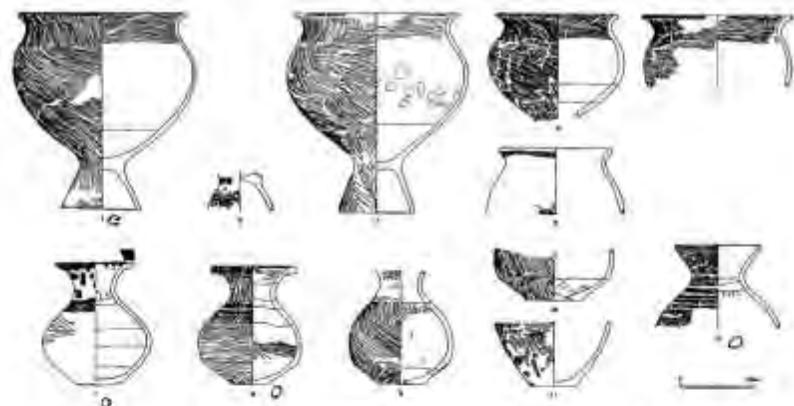
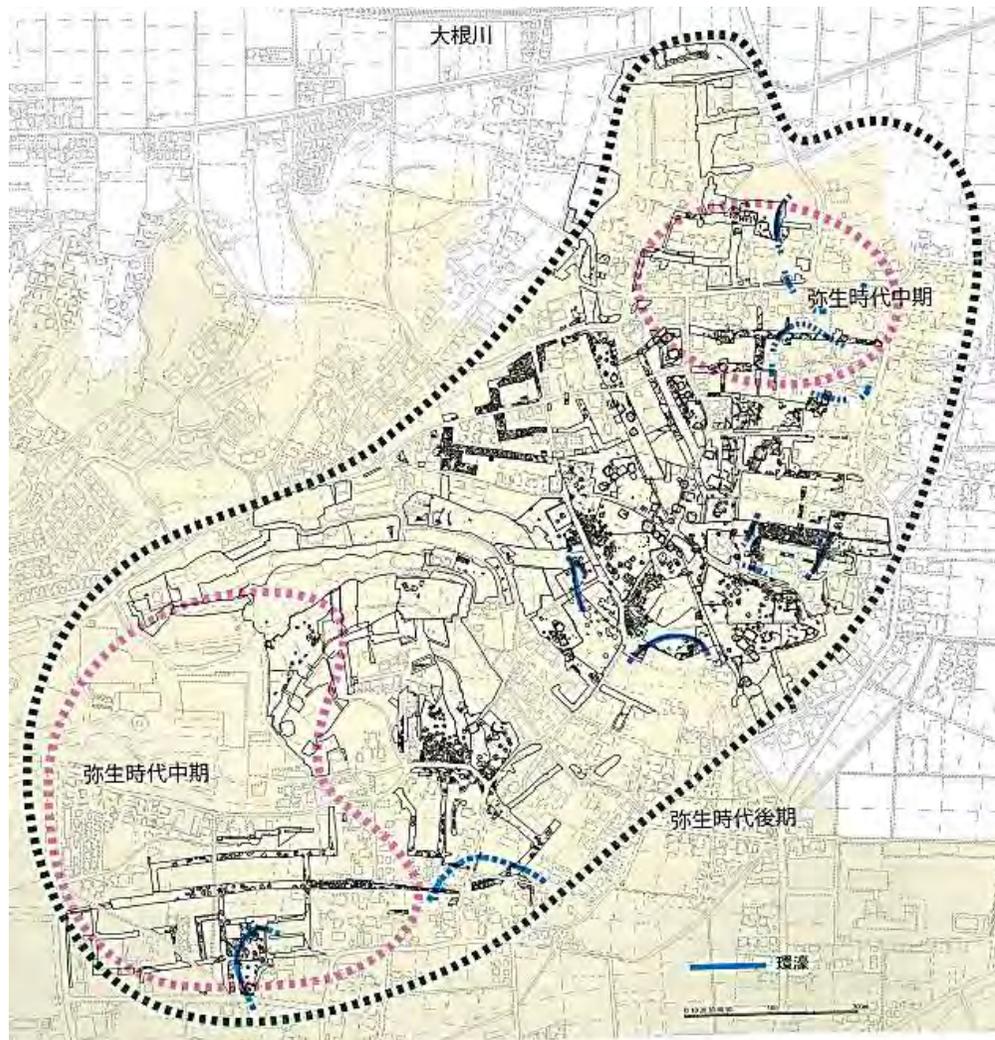
第1図 相模川水系における東三河系土器を伴う事例

伊場系(西遠江)

弥生後期の相模川流域の土器様相(西川1998より転載)

寄道系(東三河)

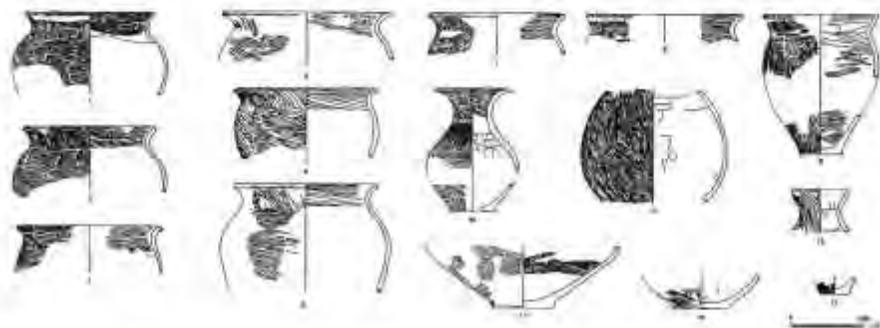
平塚市 真田・北金目遺跡群



平塚市真田北金目遺跡群 1区 S1003出土遺物

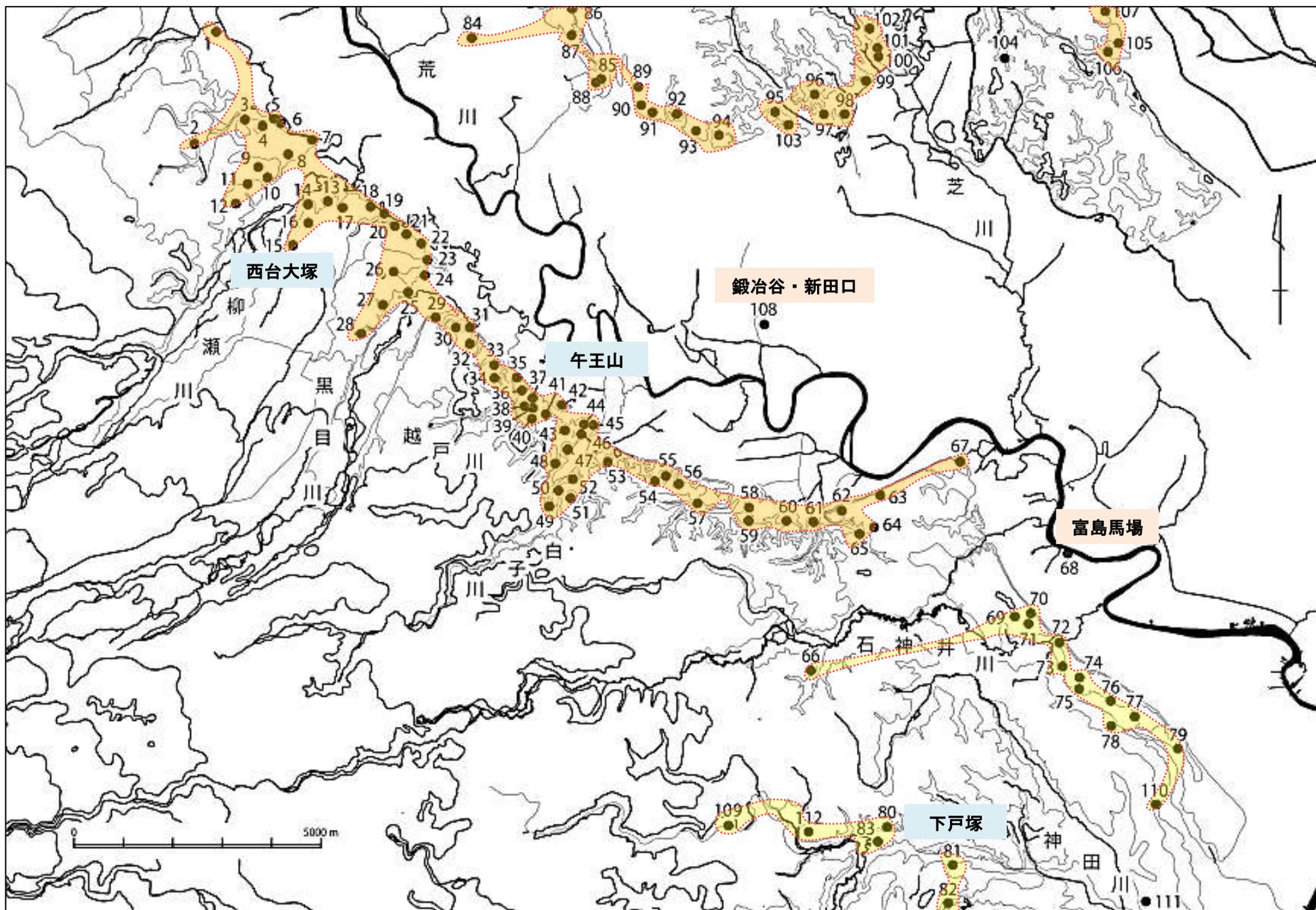


平塚市真田北金目遺跡群 2地点 S105出土遺物



平塚市真田北金目遺跡群 1区 S1012出土遺物

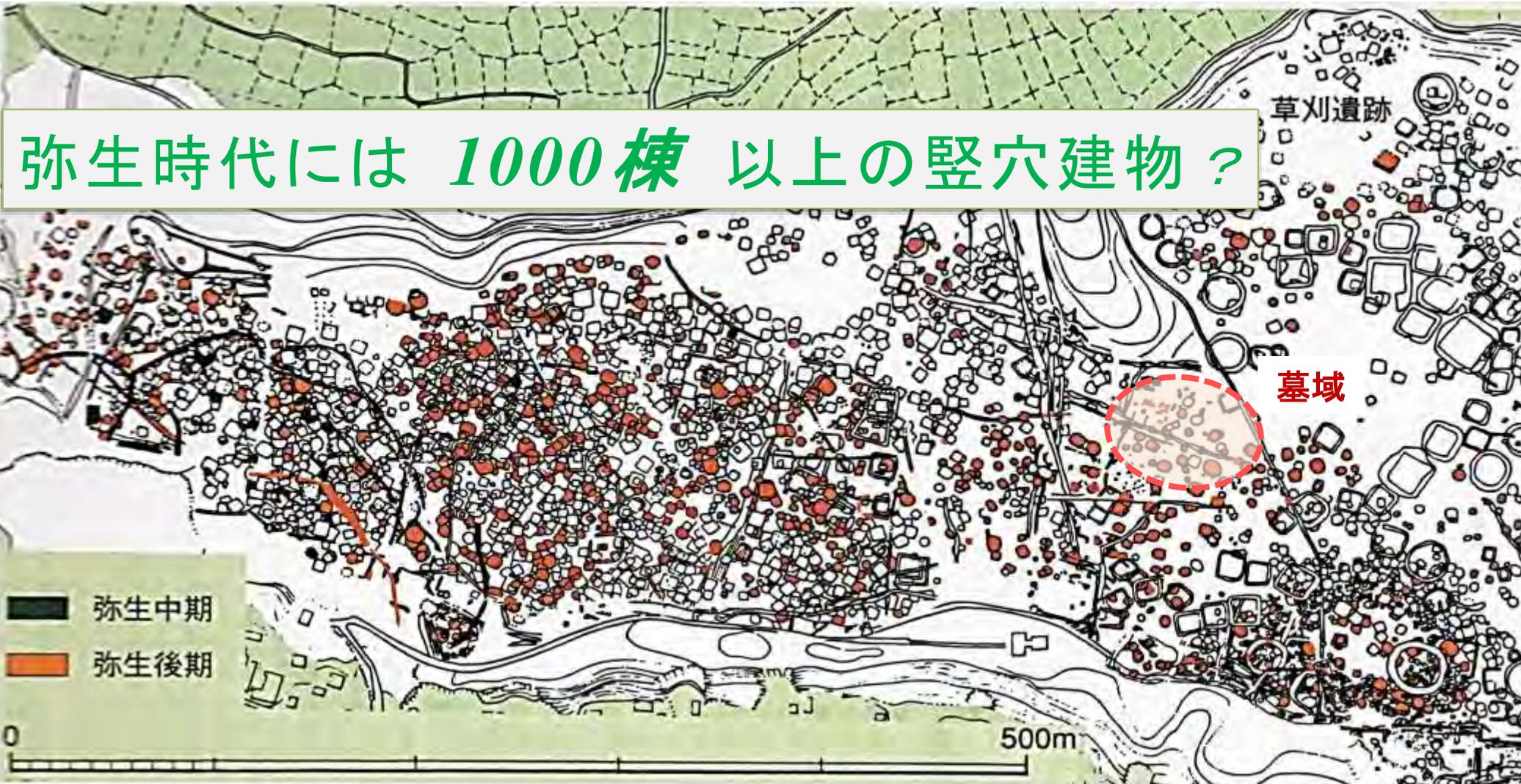
若林・川端・中島2013『平成25年度夏期特別展 平塚市文化財展 真田・北金目遺跡群』平塚市博物館



【西川改図】

鈴木一郎他2019『午王山遺跡 総括報告書』和光市教育委員会

南関東沿岸部の「集住」の意味は？ = 臼久保・山田橋段階



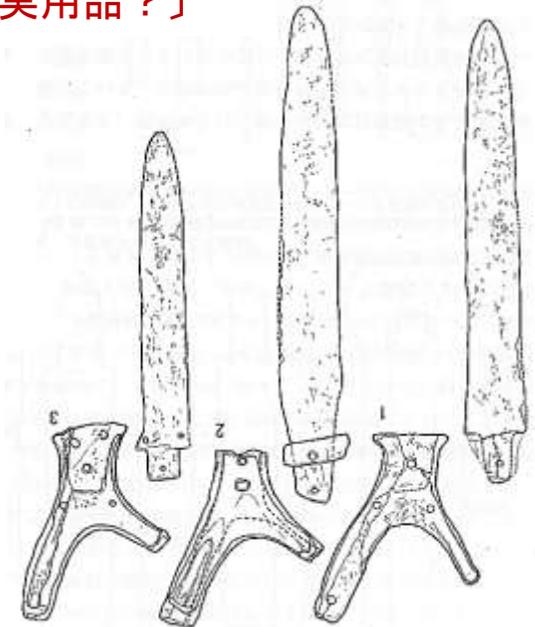
市原市草刈遺跡の弥生時代集落の密集(栗田他2012)

鹿角製Y字形把鉄剣
列島東部の「嗜好」
に合った鉄剣？



ピストル形グリップ
〔特注品？〕

ぺらぺらで薄い
〔非実用品？〕



1. 経隈 2. 門前 3. 高津尾 4. 草場第二 5. 川部 6. 川床 7. 唐子台 8. 西谷3号 9. 橋築 10. 津島
11. みそのお 12. 青谷上寺地 13. 妙楽寺 14. 左坂1号下層 15. 大風呂南1号 16. 瓜生堂 17. 小羽山30号
18. 片山鳥越5号 19. 白江梯川 20. 西念・南新保 21. 文殊堂 22. 梵天 23. 竹之内原1号 24. 登呂 25. 長崎
26. 王子ノ台5号 27. 真田・北金目 28. 池子 29. 三殿台 30. 草刈 31. 国府岡 32. 新保 33. 新保田中村前 34. 有馬
35. 空沢 36. 天神 37. 石川桑里 38. 根塚 39. 八幡山

一木造り式把縁穿孔型、鹿角Y字式把・鉄剣の分布

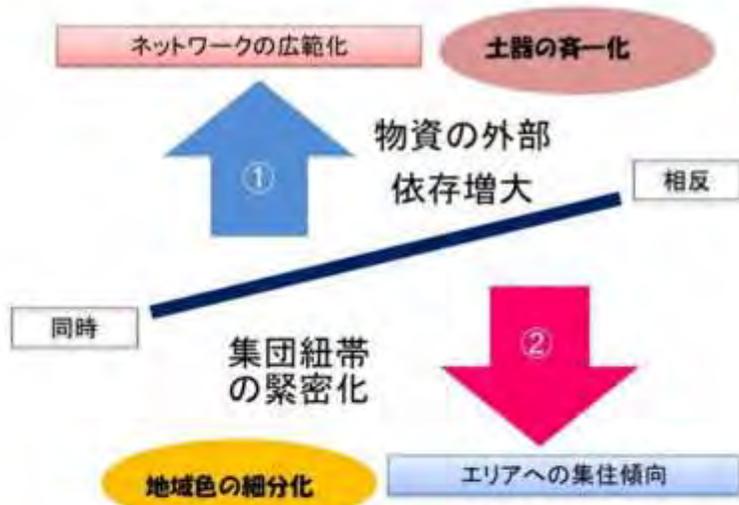


1. 那珂 2. 頓田高見 3. 川部 4. 弘住3号 5. 国司池の内 6. 長道2号 7. 高橋弘師1号 8. 平尾2号
9. 井の端7号 10. 養久山1号 11. 妙楽寺 12. 内場山 13. 今林8号 14. 浅後谷南 15. 有明8号
16. 中山大塚 17. ホケノ山 18. 高部32号 19. 棒3号 20. 神門4号 21. 石揚2号

一木造り式多方向穿孔型、四枚合わせ式糸巻底辺型把・鉄剣の分布

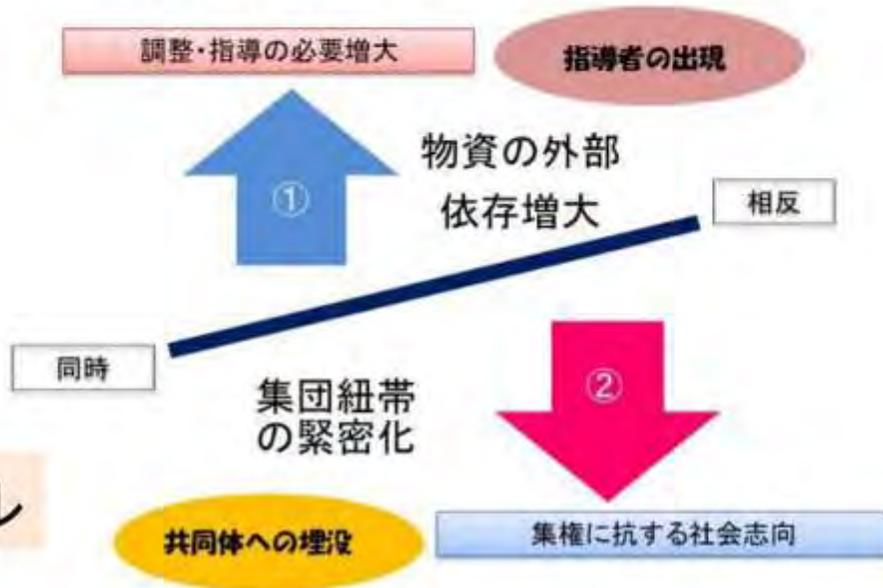
弥生後期末と古墳出現期の鉄剣流通(豊島2010を改変)

古墳出現期への変革イメージのパラドクス(1)



パラドクス(1)と(2)はひとつの事象の違った側面からの切り口を表しているに過ぎないのでは？

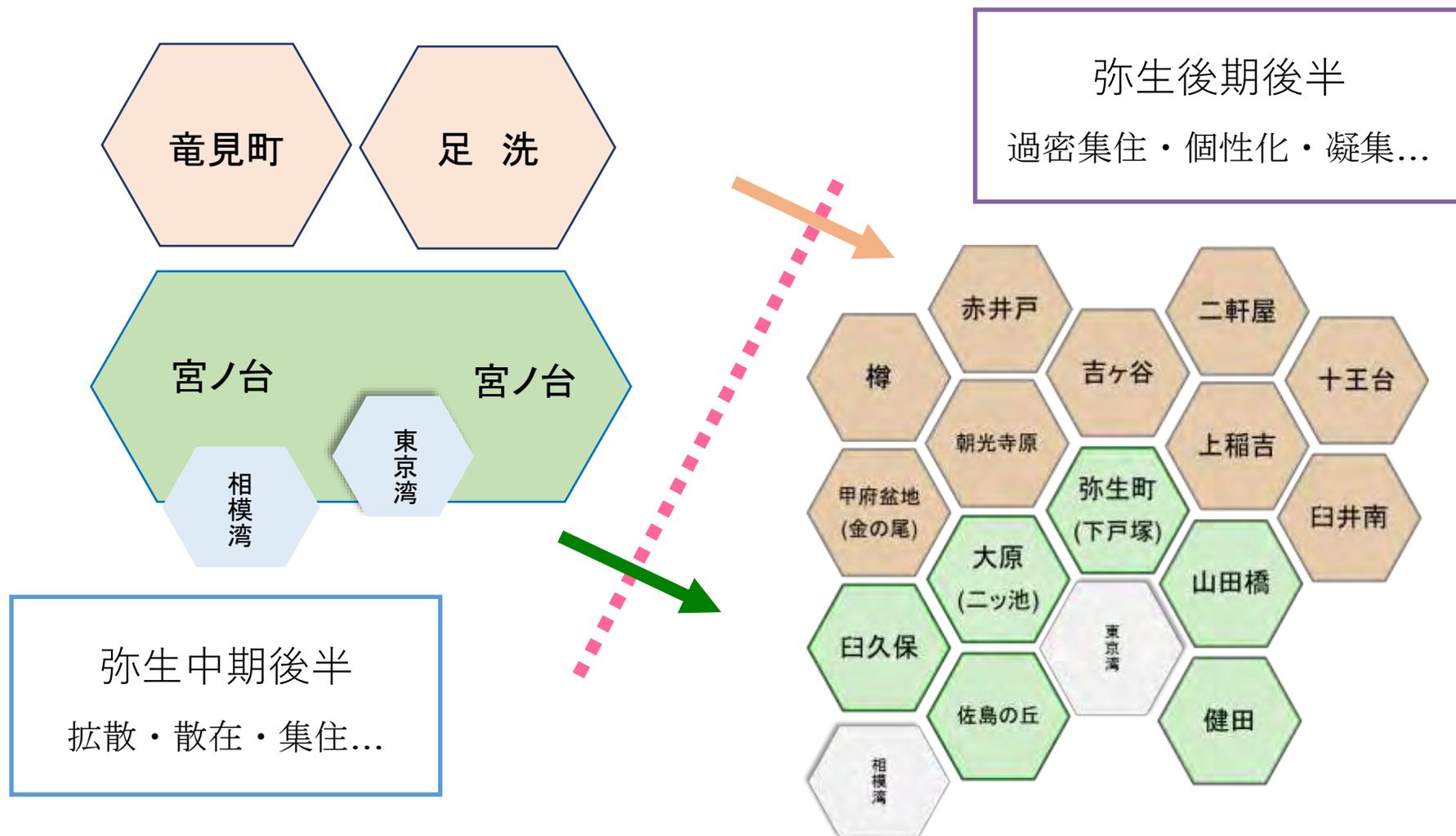
古墳出現期への変革イメージのパラドクス(2)



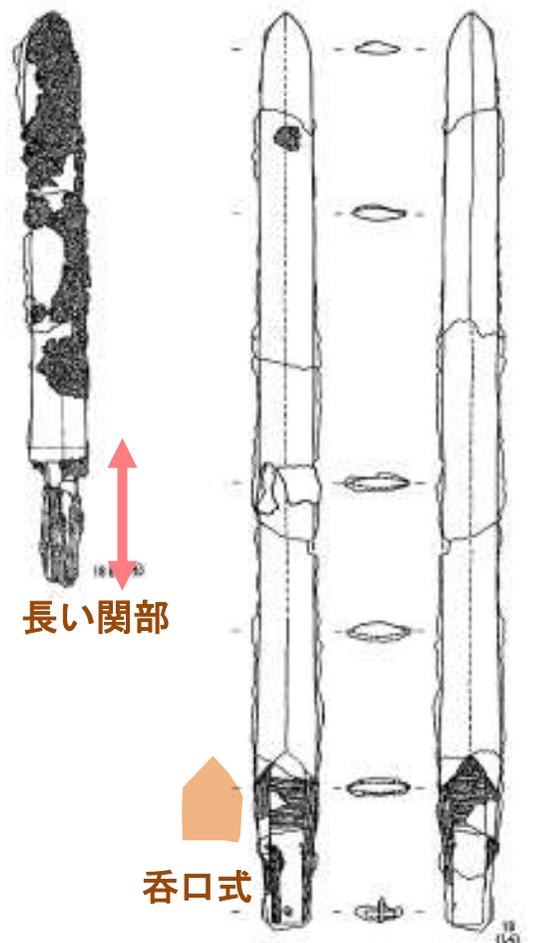
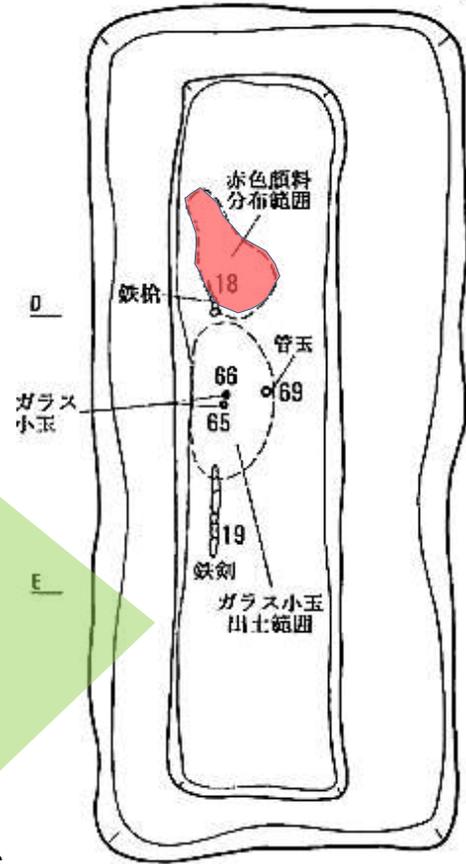
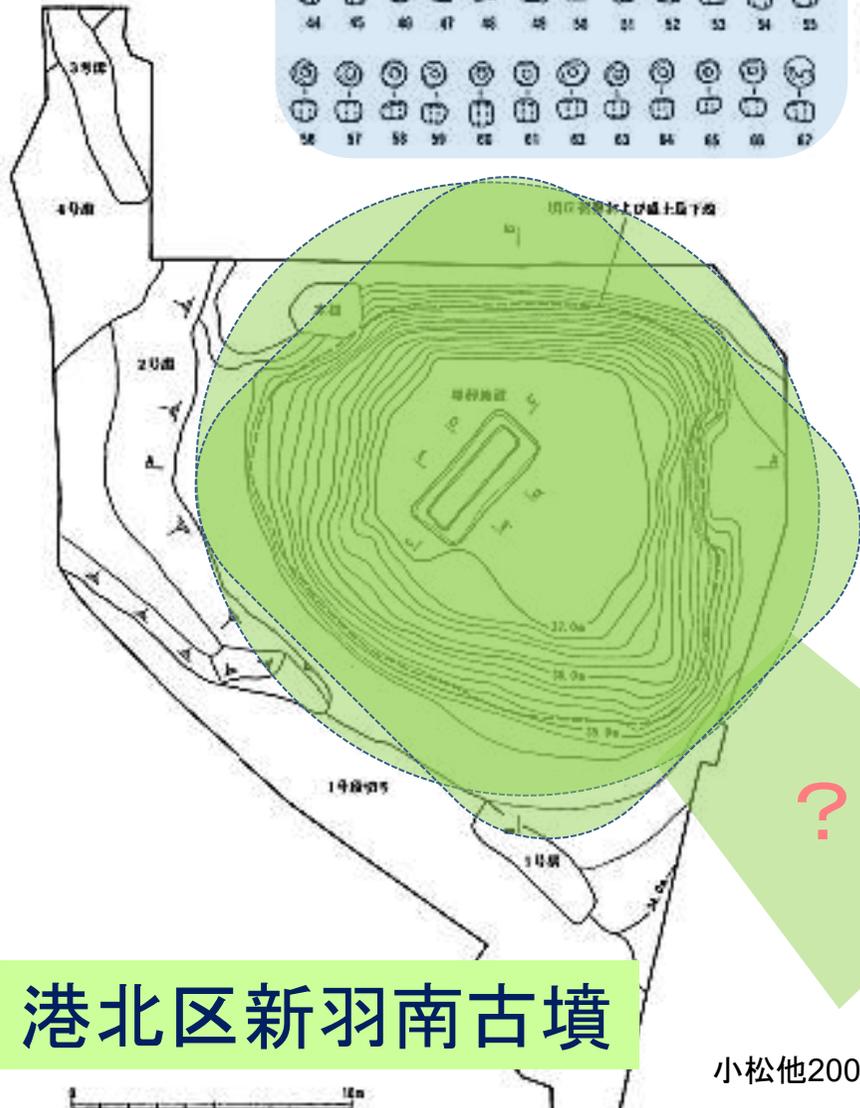
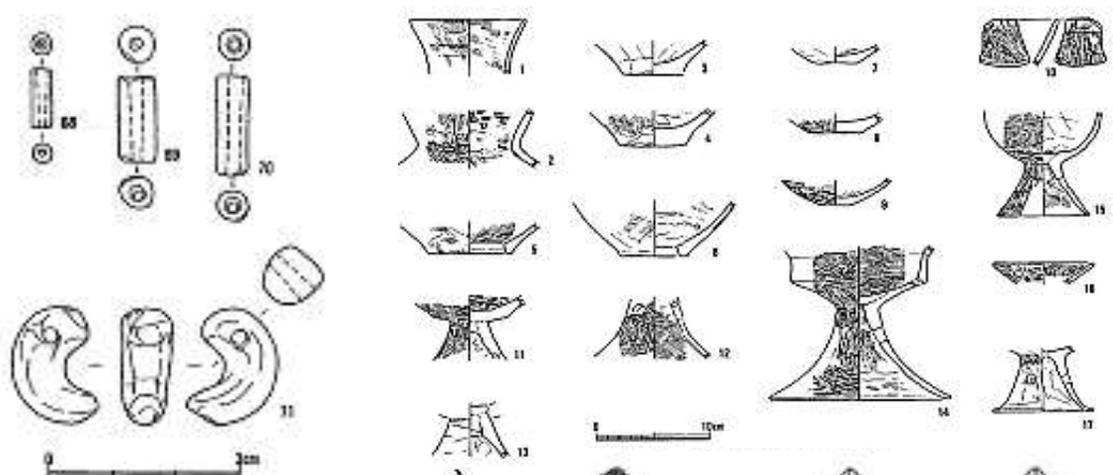
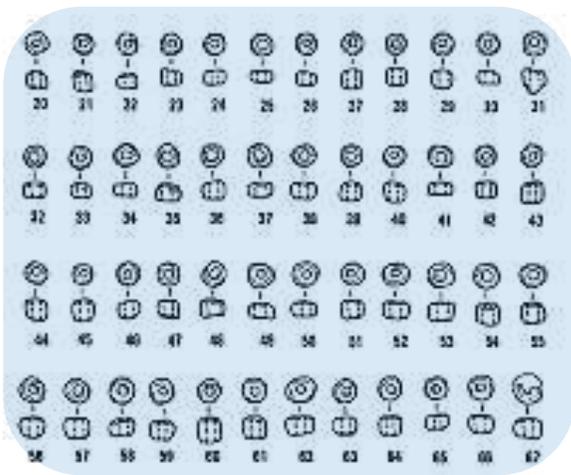
臼久保・山田橋段階モデル

第11図 関東圏の地域社会の細胞分裂のような小地域化とそのパラドクス構造のモデル

弥生後期の地域社会の変質と極端な小地域色の発現



「相模湾インパクト」以前(左)と以降の「臼久保・山田橋段階」(右)の地域色



港北区新羽南古墳

小松他2006



弥生
後期

伝統的な物流
ルートの変質

臼久保・山田橋段階の変革

古墳
出現期

ネットワークの
更新・再構築

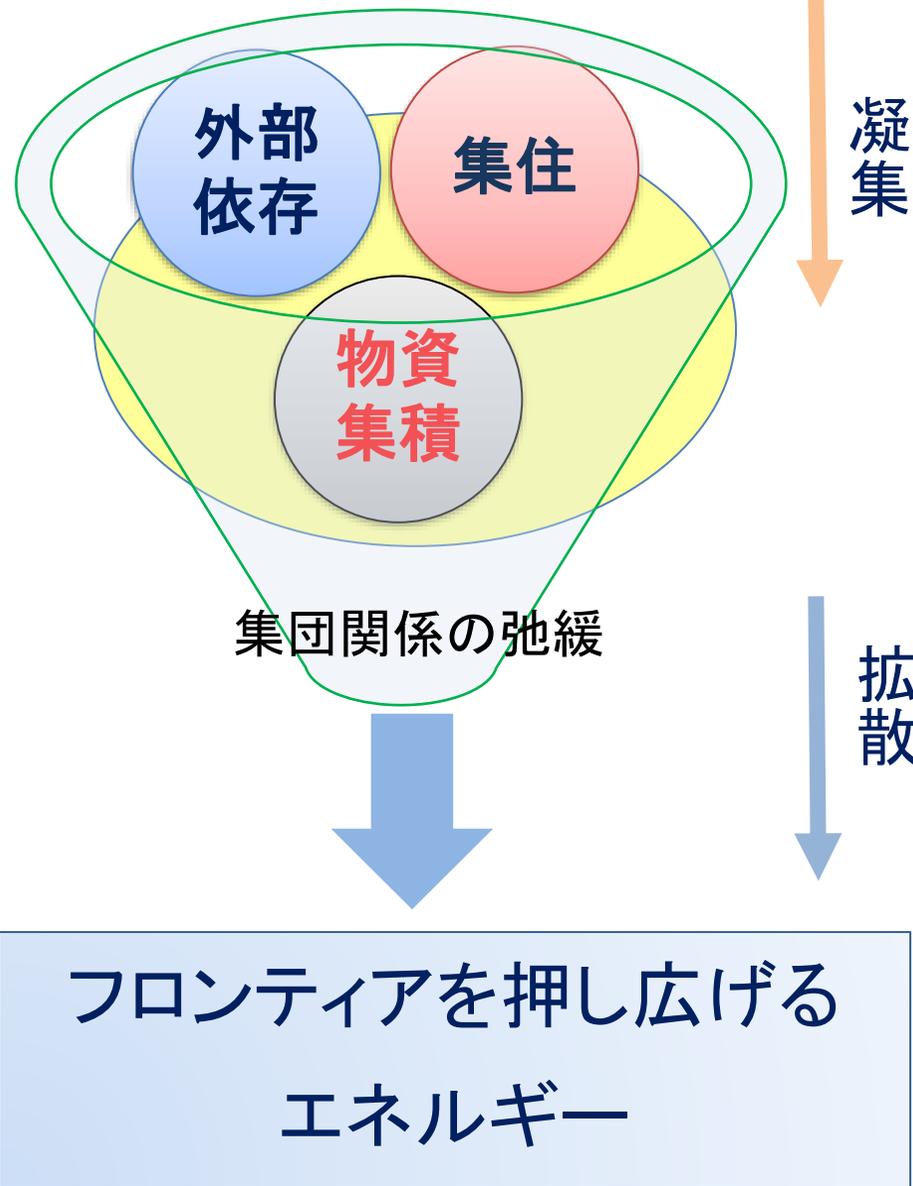
特定個人墓の出現(出現期古墳)

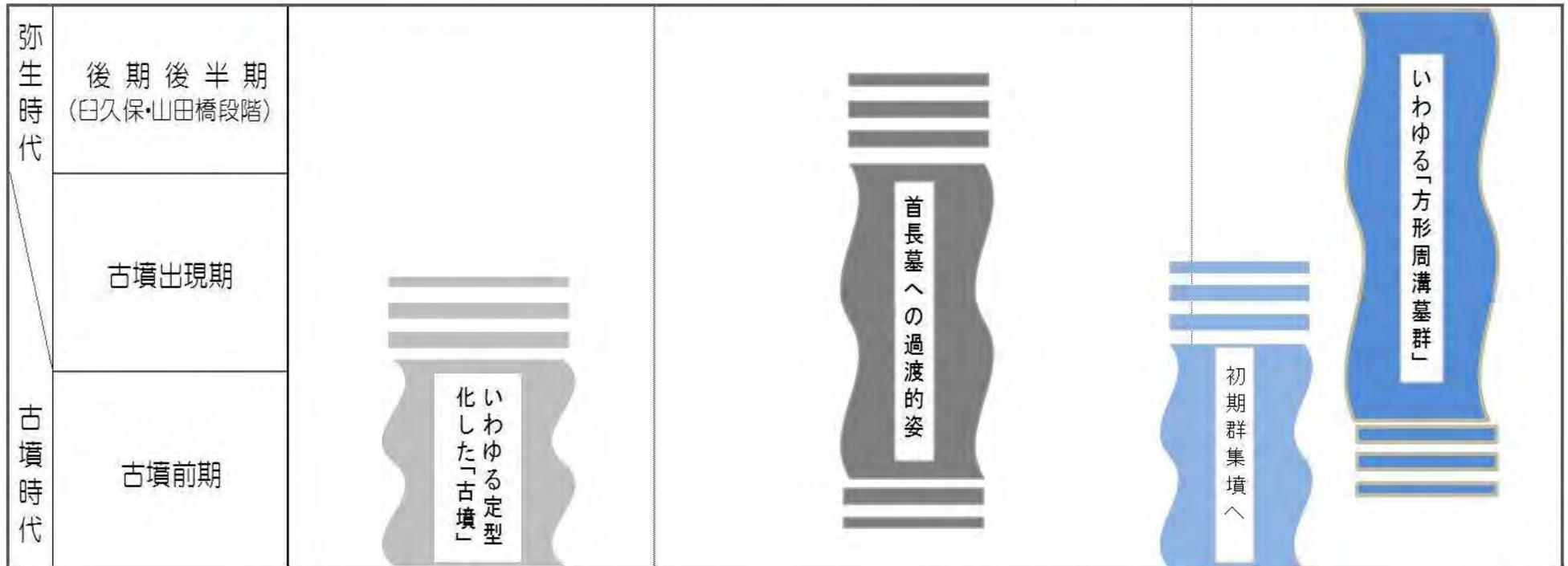
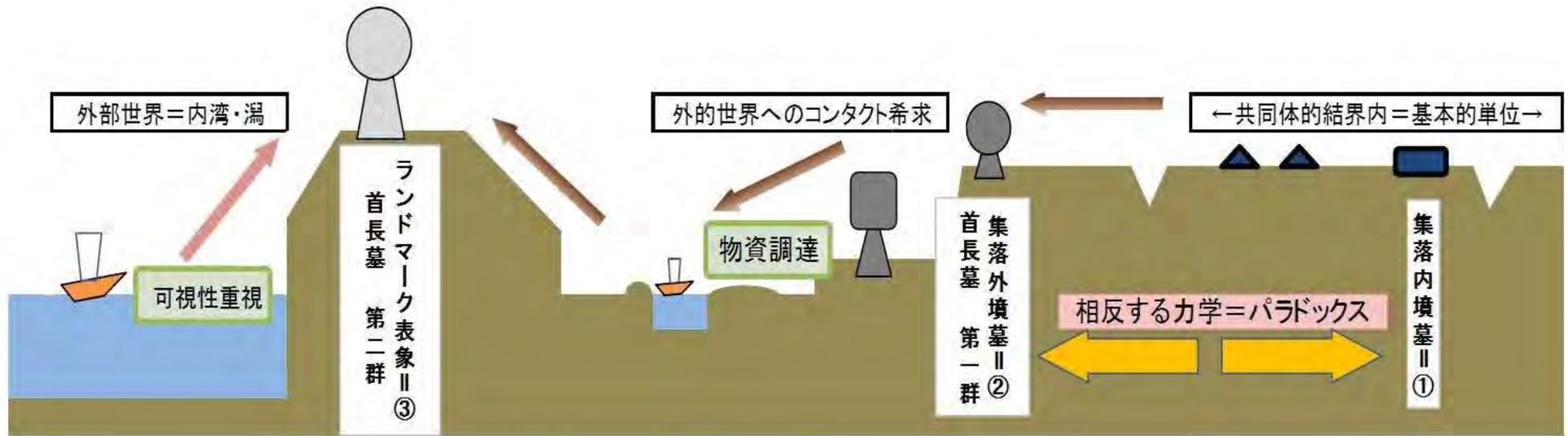
古墳
前期

リーダー間の連
携強化

定型化した前期古墳の出現

古墳出現の「論理」も再考
すべき時機である



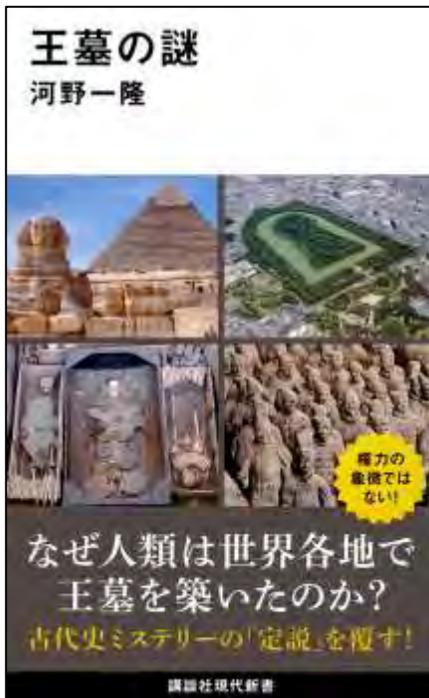


地域社会の紐帯と外的つながりという視点でみた古墳出現期のモデル

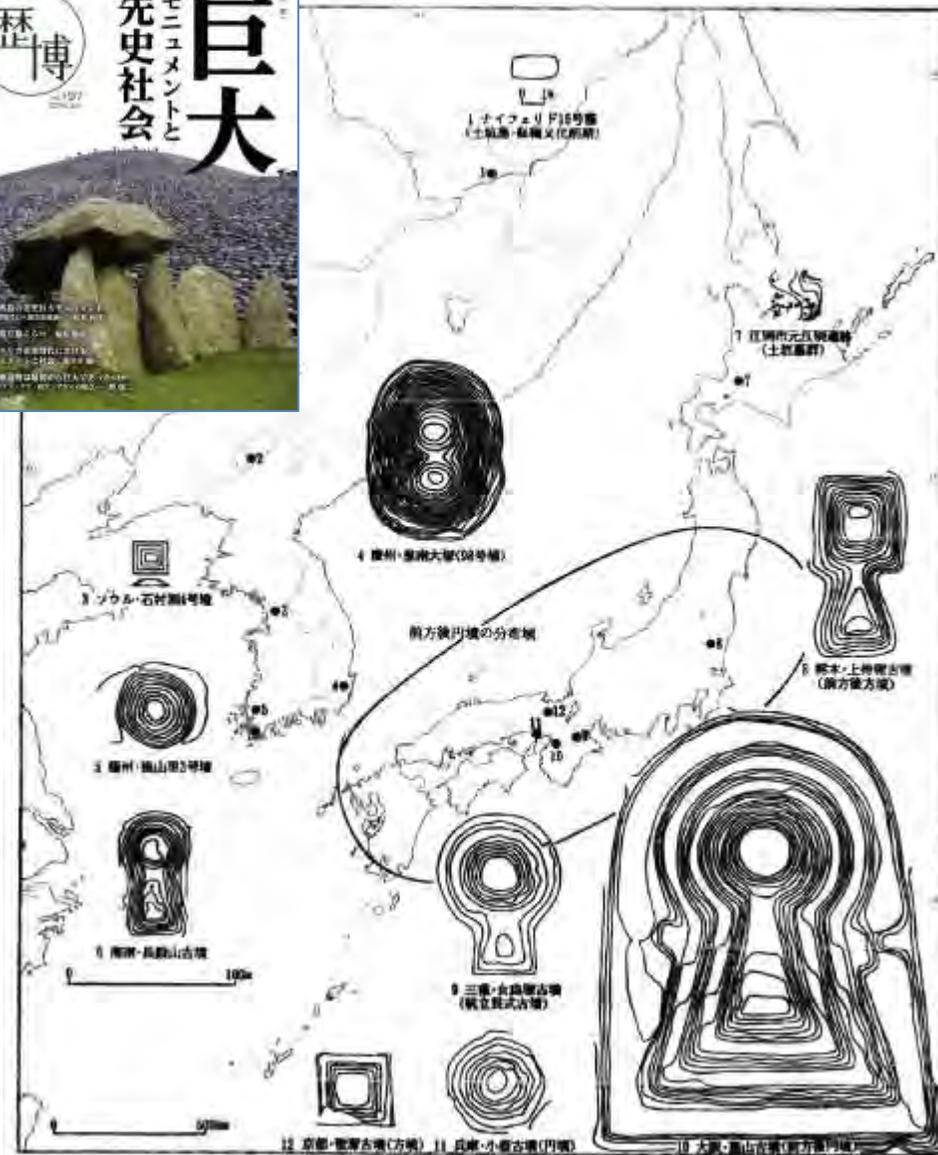
世界史的な地平から古墳築造の意義を再考する

『歴博』197(2016)

<https://bookclub.kodansha.co.jp/product?item=0000390694>



<https://www.kadokawa.co.jp/product/322302000115/>



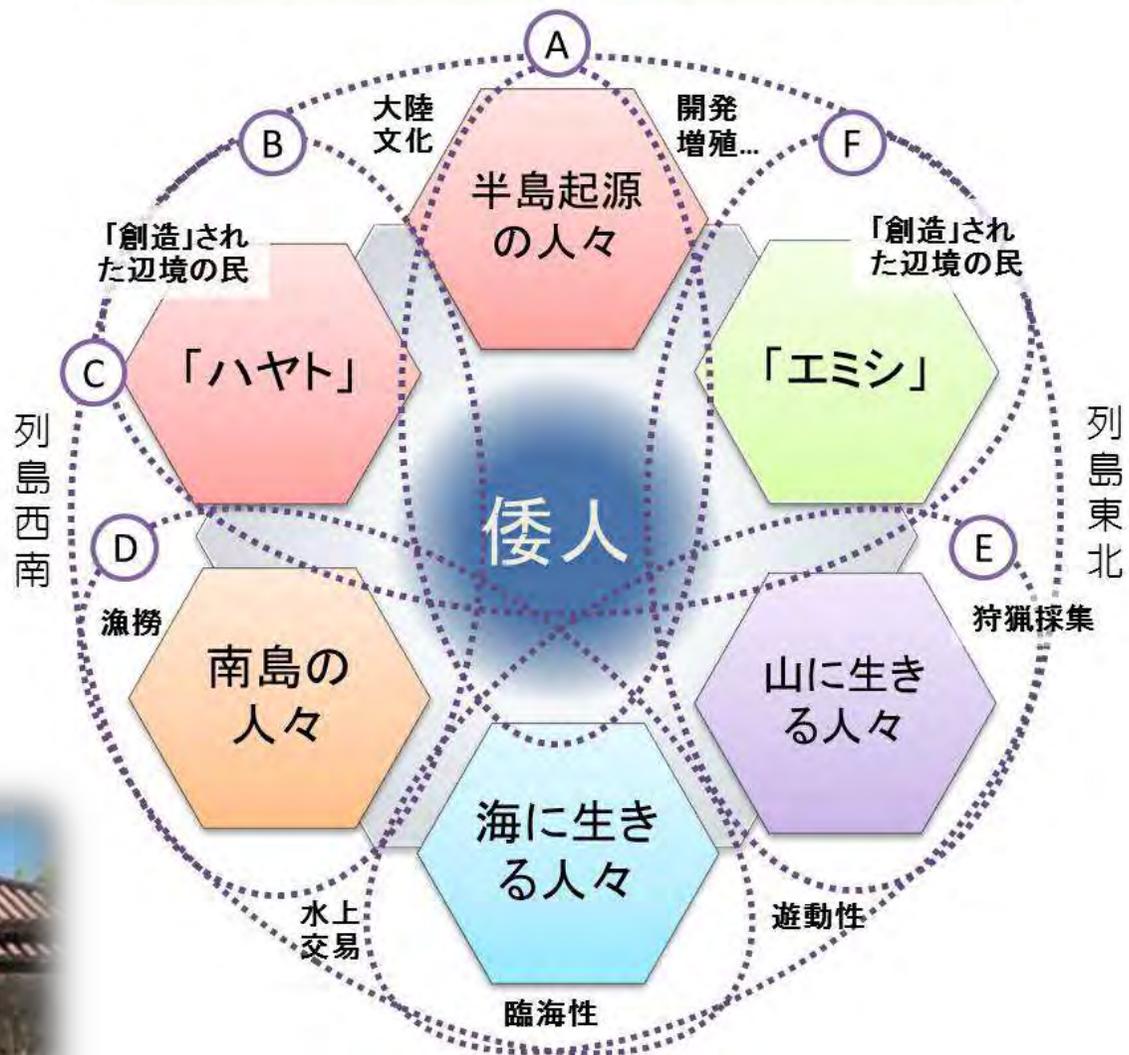
王墓は王の権力の象徴にほかならない、という定説に真っ向から反論。
王の権力欲のためのものではなく、人々が自ら進んで社会の存続を王に託した時に、はじめて誕生する。権力や富の集中を防ぐために、人類が発明した優れた機構だ…。

講談社の社HPの紹介文より要約

図1 東アジアの古墳 (3~6世紀) (新納・松木1992より)

松木2016

倭人社会の多様性とアイデンティティ



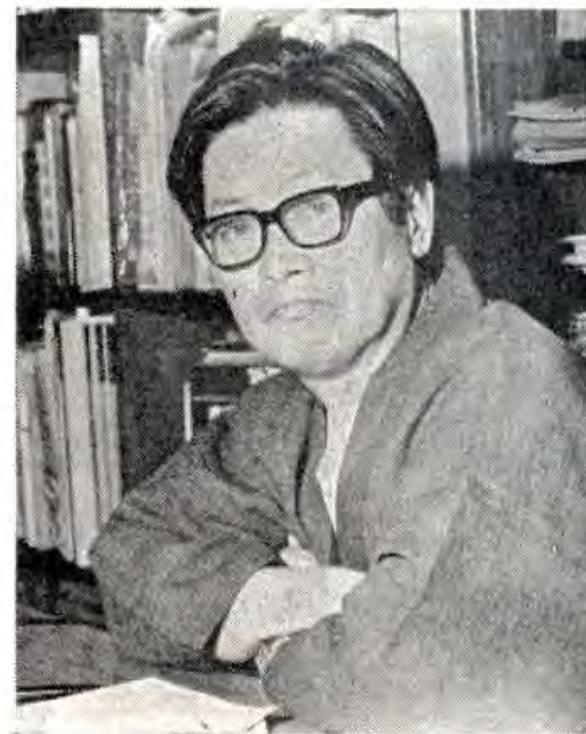


新田次郎1970 『霧の子孫たち』

1963年藤森らが霧ヶ峰
ビーナスライン建設反対
に立ち上がった実話を題
材とする。

「**乞食観光**」という痛烈な
批判は過去のものか？

『霧の子孫たち』(新装版)の表紙と
藤森栄一の厳しい眼差し



藤森栄一
1911～1973 (明治44～昭和48)

(水野1988)より

「**価値観の転倒**」とは？ (西川2016より)

社会情勢の変化により、30年前には思いもよらなかった「新たな価値観」が世を覆ってしまったのである。気付いたら、すっかり「価値観」が「転倒」していたのである。



新田次郎1970『霧の子孫たち』→
1963年藤森らが霧ヶ峰ビーナスライン建設反対に立ち上がった実話を題材とする。「**乞食観光**」という痛烈な批判は過去のものか？

←藤森栄一1974『考古学・考古学者』
死去の翌年に出された遺稿集。1938年の清野謙次の窃盗事件を契機に書かれたのが「掘るだけなら...」の文章。今の情勢とどれだけ違うだろうか？



「掘るだけなら掘らんでもいい話」

1938年＝昭和13年

—掘るだけなら掘らんでもいいのだ。資料も知識もそれ自身つまるところ**何のオーソリティにも値しない**。それより高い知性と鋭い感性と強い情熱によって、一日も早く一つの学問を形成しよう。それからこの国の人々すべてから、古い考古学の観念を叩き出してしまおうではないか。

本日の要旨...



沼津市埋
文C2016

- もっと豊饒な列島史を再構築しよう
→ 脱東征史観のススメ 誰の視点から見るか？
- 弥生時代の社会変化とは「発展」だったのか？
→ 社会進化論／環境影響論 弥生観の再構成
- 古墳出現期の新展開 「スルガの王」とは？
→ 古墳とは国家形成の帰結か？(支配/隷属)
- もっと豊かな地域文化(歴史)を想像しましょう
→ 地域文化ルネサンス 人新世のミライは...

ご清聴ありがとうございました